

東筑會報

TOCHIKU
KAIHO
2018.10.1
(平成 30 年)

No. 39



平成30年度東筑会総会・懇親会を担当した当番期88期の皆さん

創立百二十周年「東筑大還暦」



東筑会会長

深田 高一
(62期)

東筑会会員の皆様には日頃から東筑会に多大なるご支援ご協力を賜り、厚くお礼申し上げます。

私は今年6月の東筑会総会におきまして、これまで母校並びに本会の発展のため3期9年にわたって大変なご尽力をされてこれられ、この度ご勇退されました高山和幸前会長の後任として就任しました深田高一と申します。前会長には遠く及びませんが、心機一転、一意専心努力いたす所存でございますので、皆様方の更なるご指導、ご鞭撻を賜りますようよろしくお願い申し上げます。

なお、8月の役員会・幹事会におきまして、新役員、各期幹事、各委員会の委員長等が決定され新組織が整い、実働に入ったところであります。

さて、ご承知の通り、本校は今年創立120周年を迎えました。「東筑大還暦」をキャッチフレーズに、平成30年度東筑会総会では、全国から千数百余名の同窓生の出席をいただき、華やかな総会となりました。また、去る6月16日には、多数の来賓の皆様をお迎えして、120周年記念式典が厳かな中にも盛大に開催されました。

明治31年6月10日、福岡県第1号の尋常中学校として開校以来、本校を巣

立った卒業生は4万3千名を超え、文字通り歴史と伝統に支えられ今日まで発展して参りました。

常に新しい時代を先取りした教育を実践し、歴代校長をはじめ、諸先生、保護者、諸先輩、地域社会の方々並びに関係各位のご尽力に対して心から敬意を表するとともに感謝申し上げます。

また、本校生徒諸君におきましても、「文武両道・質実剛健」の校是のもと、大学進学についてはもとより、各部の活動では野球部の活躍をはじめ、ボート部、囲碁部、将棋部、山岳部、生物部、ESS等多くの部が全国大会に出場し、その名声を全国にとどろかせているところでございます。

今後、東筑会といたしまして120周年を機に、先輩、後輩そして地域とも連携を密にしながら、より強固な絆を培い、一丸となって母校、本会の益々の発展のため頑張っていかなければならないと考えております。どうか今後とも皆様のご支援ご協力をよろしくお願い申し上げます。

最後になりましたが、会員の皆様のご健勝と母校東筑高校の益々のご発展を祈念いたしまして、会長就任の挨拶といたします。

2019年度 東筑会総会：6月8日(土)

総会/15:00
懇親会/16:00

アクティブリゾーツ福岡八幡
(旧：北九州八幡ロイヤルホテル)
八幡東区枝光1-1-1 TEL (093) 662-1020

創立百二十周年記念式典を終えて 第七代校長 中垣安太郎先生のこと

学校長 中 島 良 博



東筑会会員の皆様には、益々御健勝のこととお慶び申し上げます。また、日頃から本校の教育活動に御支援御協力を賜り心より感謝申し上げます。

去る6月16日、本校体育館において120周年記念式典並びに生徒発表が、平常の自然体を基調としながらも整然と無事執り行われました。御来賓の皆様からはお褒めの言葉を数多くいただきましたが、これもひとえに皆様方の様々な御助力の賜であると心よりお礼申し上げます。

さて、記念式典の準備を進める中、私には度々過去の周年記念誌をひもとく機会があり、改めて本校の歴史を学ぶことができました。立场上、歴代校長先生の事蹟が目にとまり、中でも第七代校長中垣安太郎先生の記述には心惹かれるものがありました。その御遺徳については御存知の方も多くおられるかと思いますがここに紹介させていただきます。

中垣先生は明治44年10月に福岡高等女学校（現福岡中央高校）校長より転任。赴任当日は学校職員並びに生徒全員が折尾駅から学校に到る沿道に整列して迎えたそうですが、列中より「ウン、あれが女学校から来たのか」など冷笑の私語が交わされ、就任式の講堂は騒然として鎮めがたく生徒の列に教員が監督に立つ有様だったそうです。その中で中垣校長は教員全員に職員室へ戻るように告げられ、一人悠然として壇上に立たれたときには気荒の生徒たちもその剛胆沈着なる気に吞まれて肅然水を打ったように傾聴し、慈父の態度で簡明明晰に力強い訓告を与えられたところ生徒の態度は一変したと伝えられています。

在職中の逸話としては、口論の末同級生に対する傷害事件を起こした生徒に放校処分決議がなされた際、職員を説得し一旦校長預かりとした上で猛省を促し謹慎の後、東京の学校に転学の手はずまで整えられたところ、当該生徒はその温情に感激しその後医学を修め立派な医師になったことや、粗暴で放校処分相当の生徒数名を自ら借り上げた家に寄宿させ訓育されたことなど、枚挙にいとまがありません。

このような中垣校長の薫化主義によって生徒たちも徳風に感化され、一時粗暴の評判を受けていた学風も大いに改まっていたと言われています。その誰もが認めた大校長は大正4年、津屋崎で行われていた恒例の夏季水練に呼吸器疾患を持つ身をおして監督として赴き、その無理がたたって療養の後、大正5年3月1日に永眠されたそうです。葬儀での生徒総代の弔辞には、「（生徒の愚行に対しても）常に温容もて静かに父の如く、時には母の如く諭し誠め給ひき。吾等は師の恩のいや深きに感涙に咽びしこと幾度ぞ」とあります。

この度、本校120年の歴史に接し、私自身様々な示唆を得られました。これを契機に温故知新の思いで本校教育活動の充実にさらに努める所存ですので、今後とも御支援のほどよろしくお願い申し上げます。

参考文献

『中垣安太郎先生』（昭和16年 福岡縣教育會）
『東筑八十年史』（昭和54年 東筑高校）

退任に際して

前東筑会会長 高山 和 幸（56期）



東筑会の皆様方におかれましては、益々ご健勝の事と思っております。

去る6月の東筑会総会で、会長を退任させていただきました。3期9年間の永きにわたり、非力ではございましたが、役員の方々は

が、何とか務めることができましたのは、役員の方々をはじめ、会員の皆様のご支援・ご協力の賜物だと、衷心より感謝申し上げます。とりわけ、昨夏の第99回全国高校野球選手権大会、今春の第90回記念選抜高校野球大会への2大会連続出場という快挙は、東筑会全体としても大いなる活気をもたらせてくれました。全国から集まってくれた甲子園のアルプススタンドで応援される同窓の姿は、この目にしっかりと焼き付いています。同窓生として大変誇りに思っています。

また、本年度は東筑高校の創立120周年、いわゆる「東筑大還暦」の年でした。その周年行事の実行委員長として、学校と連携して記念誌の発刊、式典や祝賀会の開催、講演会、ラクビー大会、野球大会等の記念事業を行ってきました。東筑会の皆様方には、本当によくご支援・ご協力いただき、衷心より感謝しております。

最後になりましたが、東筑同窓生は4万2千人を超えるに至りました。その同窓の絆は年々強くなっているように感じています。これからの母校東筑の更なる発展と東筑会の皆様方のご健勝を祈念申し上げ、退任の挨拶といたします。ありがとうございました。

平成30年度 総会報告

6月9日(土)、東筑高等学校同窓会がアクティブリゾート福岡八幡(旧北九州八幡ロイヤルホテル)にて開催されました。

15時から万葉の間において総会が行われ、司会の言葉に引き続き、高山会長、中島学校長、樋高龍治相談役から親しく挨拶を頂戴しました。その後、高山会長を議長に選出した上で議事が進行し、平成29年度の事業報告、収支決算ならび会計監査の報告、続いて平成30年度の事業計画案、収支予算案の審議が行われ、すべての議案が異議なく承認されました。さらに事務局から諸事項連絡や甲子園出場の報告などがありました。

また本年度は会長改選の年でもあり、高山和幸会長が退任され、新たに深田高一会長が選任されました。高山和幸会長に於かれましては、長年にわたりご教導を頂戴しましたことを、心より御礼を申し上げます。

総会終了後、16時からロイヤルホールにて懇親会が開催されました。本年は88期が当番期となり「東筑大還暦——伝統の襟を未来へ——」というテーマのもと、全国から参集した1200名の同窓の方々とともに本校120周年を寿ぎ、故郷を懐かしむとともに、懇親を深めました。予定していた2時間が瞬く間に過ぎ、その場にいた全員が名残惜しく別れるとともに、笑顔の中、また来年この場で元気な姿で再会する約束をしていました。

平成30年度事業計画

会則第2条(本会の目的) 達成のため、平成30年度は左記の事業を行う。

- ① 母校発展のため、教職員・生徒・父母との密接な連携、グローバルジュニアス研修、国内ジュニアス研修の支援、卒業生による講演会の講師協力、図書館の充実
- ② 各地区東筑会との連携強化
- ③ 組織網の強化(組織委員会)
- ④ 年会費の納入促進(財務委員会)
- ⑤ 東筑会報(第39号)の発行(会報委員会)
- ⑥ 東筑会館史料展示室の整備

平成30年度 一般会計予算書

(収 入)		自 平成30年5月1日 至 平成31年4月30日
費 目	予 算	備 考
繰越金	519,786	
入会金	4,608,000	4,800×960人(117・118・119期)
会費	2,500,000	2,000×1,240人・1,000×20人
基本金より	4,000,000	
雑収入	30,000	預金利息、会員名簿他
計	11,657,786	

(支 出)

費 目	予 算	備 考
総会費	1,000,000	当番期(89期)へ
会議費	130,000	議案書、各種会議案内状等
記念品費	180,000	卒業証書入れ(アルバム式)
会報費	3,400,000	会報、封筒、振込用紙印刷、会報郵送料
慶弔費	450,000	各地区東筑会、学校行事祝儀等
旅費交通費	270,000	各地区東筑会総会出席
会館管理費	90,000	休祝日、時間外手当
事務局費	740,000	電話・電気料、通信費、プロバイダ料、コピー機リース料、事務室使用料、HPサーバー料
振替手数料	100,000	会費振込手数料
賃金	1,650,000	事務局員
教育振興費	2,100,000	母校教育振興・定期野球大会・ジュニアス研修補助金・図書館の充実
120周年事業費引当金	1,500,000	記念式典費用
基本金	0	
予備費	47,786	
計	11,657,786	

平成29年度 東筑会会計監査報告

東筑会会長 高山和幸殿

このことについて、下記の通り報告します。

記

平成29年度「東筑会一般会計」・「東筑会基本金会計」について、出納簿・証拠書類等を精査、照合した結果、適正に処理されていることを認めます。

平成30年5月15日

会計監査 矢野定延 ㊞

会計監査 井土光徳 ㊞

平成29年度 一般会計決算書

(収 入)		自 平成29年5月1日 至 平成30年4月30日
費 目	決 算	備 考
繰越金	2,394,250	
入会金	4,516,800	4,800×941人(116・117・118期)
会費	6,563,000	2,000×3,222人・1,000×1人 4,000×22人・10,000×3人
雑収入	596,434	会員名簿 87期より526,056円 預金利息他
計	14,070,484	

(支 出)

費 目	決 算	備 考
総会費	1,000,000	当番期(88期)へ
会議費	111,606	議案書、各種会議案内状等
記念品費	180,576	卒業証書入れ(アルバム式)
会報費	3,323,453	会報、封筒、振込用紙印刷、会報郵送料
慶弔費	390,000	各地区東筑会、学校行事祝儀等
旅費交通費	243,580	各地区東筑会総会出席
会館管理費	115,784	厨房冷蔵庫、休祝日、時間外手当
事務局費	736,870	電話・電気料、通信費、プロバイダ料、コピー機リース料、事務室使用料、HPサーバー料、コピー機トナー
振替手数料	356,954	会費振込手数料
賃金	1,650,000	事務局員
教育振興費	1,941,875	母校教育振興・定期野球大会・生徒派遣補助金・図書館の充実
120周年事業費引当金	1,500,000	記念式典費用
基本金	2,000,000	
予備費	0	
計	13,550,698	
差し引き残高	519,786	次年度へ繰越金

平成29年度 基本金会計決算書

(収 入)		自 平成29年5月1日 至 平成30年4月30日
費 目	金 額	備 考
繰越金	19,622,214	
繰入金	2,000,000	一般会計より
雑収入	3,688	4,021(預金利息)-324(残高証明書)
計	21,625,902	次年度へ繰越

●新役員が決まりました●

高山和幸会長の退任にともない、去る6月9日東筑会総会に於て新会長に62期の深田高一さんが選任されました。
新年度役員・幹事・委員に次の方々が会長から委嘱されました。東筑会の発展のためによりしくお願い致します。

役 員

名誉会長	中島 良博 (76期)
会 長	深田 高一 (62期)
副 会 長	高崎 徳彦 (68期)
〃	岡部 憲昭 (73期)
〃	佐竹 真人 (74期)
〃	福山 岳彦 (76期)
〃	原田 美穂 (78期)
幹 事 長	平田 龍司 (69期)
副幹事長	中川 靖啓 (79期)
〃	小野 裕和 (81期)
〃	神森 正茂 (82期)
〃	大里真希子 (83期)
組織委員長	日高 教夫 (64期)
会報委員長	青野 元昭 (70期)
財務委員長	三宅 正輝 (71期)
会 計	石神 務 (69期)
〃	江口 暢啓 (82期)
監 査	筒井 信秋 (70期)
〃	末次 啓子 (79期)
特別顧問	高山 和幸 (56期)
顧 問	小野 晃 (51期)
〃	竹尾 昭 (45期)
〃	日高 康 (53期)
〃	長野 熙 (56期)
相 談 役	樋高 龍治 (53期)
〃	三原 朝彦 (64期)

事 務 局

事務局長	小川 邦彦 (77期)
事務局次長	増本 俊記 (85期)
〃	姫野 毅 (87期)
事 務 局	藤澤 泰尊 (65期)

幹 事

(39期)	刀根 博愛
(41期)	佐藤 通泰
(42期)	吉田 繁美・山鹿 栄行
(43期)	古川 重美
(46期)	日高 英俊・加藤 正道
(47期)	石松 英幸

(48期)	安部 一正
(49期)	神坪 利幸・矢野 清孝
(50期)	葉山 隆・高橋昭八郎
(51期)	江藤 幹男・山崎八江子
(52期)	田代 栄一・成清 英子
(53期)	小野 亨雄・松尾 壽也
(54期)	末吉 倫雄・田中 静子
(55期)	大迫 隆典・末松 恒雄
(56期)	安部 久喜・前田 義昭
(57期)	原田 誠一・夜部 栄子
(58期)	須藤 達一・川原 晴美
(59期)	木村 久光・三好 伸介
(60期)	有田 秀明・森 スマ子
(61期)	三原 征彦・中村 恭子
(62期)	栗田 修一・山住 道子
(63期)	川原 克彦・井上 俊子
(64期)	池田 隆吉・吉田 泰一
(65期)	吉田 清二・向坊 博美
(66期)	加来 久幸・小川 博幸
(67期)	後田 広治・黒川 正幸
(68期)	櫻井日出也・田島 武
(69期)	末吉 信之・田中 廣美
(70期)	須藤 正樹・濱田 泉
(71期)	三宅 正輝・栗原 百代
(72期)	長畑 重弘・草野 克也
(73期)	大峯 一純・南野 義明
(74期)	佐竹 真人・中田恵美子
(75期)	阿高 和憲・奥田 尚弘
(76期)	竹内 容子・菊竹 史郎
(77期)	太田 清治・徳崎 康司
(78期)	吉松 秀雄・野口 敦弘
(79期)	中川 靖啓・藤井 潤
(80期)	天野 浩文・江口 悟
(81期)	赤松 由隆・坂井 浩司
(82期)	神森 正茂・江口 暢啓
(83期)	大藤 安俊・徳永 圭裕
(84期)	松尾 康德・秋月 裕幸
(85期)	梶島 悦子・山下耕太郎
(86期)	藤富 誠吾・岡村 宏幸
(87期)	船元 幸徳・廣渡 実和

(88期)	柴田 泰山・川地 啓輔
(89期)	井上 亮・松本 卓志
(90期)	松尾 智章・小野山美緒
(91期)	穴井 秀和・金岡 健 福田百合加
(92期)	山部 和範・加藤 敦子
(93期)	平井 健・吉村 知子
(94期)	三原 朝利・馬田 智也
(95期)	清本 芳史・川野由香梨
(96期)	中村 寛・中村 正江
(97期)	山口 伸治・佐々木 彩
(98期)	小早川知徳・貞清 育恵
(99期)	藤田 祥平・結城 昇子
(100期)	渡辺 大樹・高畑 裕子
(101期)	平田 鷹司・木村早紀子
(102期)	柴岡 秀年・川本 一子
(103期)	山下 浩平・大田 美子
(104期)	江田 浩昭・齊藤 純子
(105期)	今村 祐太・日笠 純美
(106期)	太田 翔平・平野 巧弥
(107期)	秋月 亮介・須藤 朋美
(108期)	白石 隆貴・松尾 由貴
(109期)	神野汰久巳
(110期)	池田 陽大・船田明花里
(111期)	平崎 翔太・向井あかり
(112期)	林 秀運・神田 美香
(113期)	小林 彩人・佐甲 有里
(114期)	島津 和仁・盛満 翔伍
(115期)	中尾 勇喜・山田穂乃佳
(116期)	田浦 嘉隆・岩瀬 未奈

各委員会

組織委員長	日高 教夫 (64期)
会報委員長	青野 元昭 (70期)
財務委員長	三宅 正輝 (71期)

お願い

代表幹事が交代する場合は同期で打合せのうえ、後任者を事務局長にお届け下さい。

不活幹事は運営に支障をきたすことが予想されます。

当番期を終えて

「東筑大還暦」の名のもと、6月9日の母校東筑120周年を記念した東筑会総会懇親会に東筑高校をはじめ、恩師の諸先生やご来賓の方々、そして1200名におよぶ同窓の皆さまのご参加を賜り、おかげさまで無事盛大裡に本会を終えさせていただきましたことを、当番期一同、心より御礼を申し上げます。

昨年、87期の先輩方から伝統の襷を引き継いでからのこの一年間、東筑高校、東筑会本部の諸先輩、そして全国同窓の皆さまからのおたかひご支援やお支えを賜り、また5月11日のゴルフ大会、そして各地東筑会を通じて当番期としてのお導きをいただきましたながら、私

当番期を迎えて

去る6月9日の東筑会懇親会にて、いよいよ私たち89期が88期の柴田先輩より伝統の「当番期の襷」を受け取り、当番期を迎えることとなりました。

例年、先輩方が団結して、総会・懇親会を見事に運営しているのを見ておりましたので、襷を受け取って、さらに責任の重さを痛感するとともに、この伝統の襷を必ず後輩たちに引き継いでいけるよう、89期一丸となって精一杯務めさせていただきますので、皆様には今後も引き続き、ご指導、ご支援、ご協力をよろしくお願い申し上げます。

当番期は、46歳で迎えるわけですが、人生でも公私ともに一番忙

達88期は「全同窓に東筑120年の歴史を全身で感じ取っていただきたい」という願いと想いのもと準備を進めて参りました。E・A・ポオの『ユリイカ』に「青年期がつづくかぎり、われわれは生きている」という感じほど自然な感情はない」という一文がありますが、まさにこの一年間は青年期に立ち戻り、また立ち戻ったからこそ、故郷、旧い友人、先輩方や後輩たち、母校東筑に護られながら、こうして今の自分が生かされている」と気付くことができました。

あの日、どこか一瞬にでも皆様は青年期に立ち戻り、「われわれはともに、ここで生きている」ということを実感していただければ、当番期としてこれ以上の喜びはございません。

大還暦を迎えた母校東筑がさらなる飛躍に向けた未来への第一歩を踏み出したように、すべての同窓生が希望と光が満ち溢れる未来へと人生の第一歩を踏み出すことを祈念申し上げます。また、伝統の襷をお渡しした89期にも、私達88期が頂戴した以上のあたたかいご支援やご協力を賜りますことをお願い申し上げます。当番期としての御礼のご挨拶とさせていただきます。本当にありがとうございます。

88期会長 柴田 泰山

89期会長 柴田 健彦

しい時ではないでしょうか。その時に、純粹に東筑同窓生に喜んでいただけるために時間、労力を費やし、責任を全うするということの意味は非常に大きいと思います。

久しぶりに集まる同期とともに、力を出し合いながら、損得などではなく「純粹に」というところが、今後の人生においても大きな財産になると考えています。同期の心をついに集まってきた。同期の心をついに集まってきた。同期の心をついに集まってきた。

これから1年間、北は北海道から南はひのくに東筑会まで、日本全国の地域東筑会に参加させていただきます。東筑の歴史、伝統、先輩方が引き継いでこられたものを体感、共有させていただきたいと

最後になりますが、来年度の東筑会総会・懇親会への皆様のご参加を心からお願ひ申し上げます。とさせていただきます。

◆ 第35回 東筑会ゴルフ大会成績 ◆

平成30年5月11日（金）に宮若市にあるザ・クラシックゴルフ倶楽部にて、第35回東筑会ゴルフ大会が総勢218名の同窓生の参加のもと開催されました。当日は母校東筑創立120周年を記念すべき大会にふさわしい快晴となり、紺碧の空のもと皆様が本当に楽しそうに笑顔でプレーをされる姿がとても印象的でした。

本大会の団体優勝は68期の皆様でした。同期参加者上位ネットスコア292.4という見事な成績を出したのは増田俊明、吉田晃、中園聡、長野雄二（敬称略）の各先輩で、6月9日の東筑会同窓会懇親会において68期代表の吉田晃先輩に優勝旗が授与されました。また準優勝が62期、僅差で3位が57期という結果となりました。

この他、各部門で個人優勝が決まり、

爽やかな5月の風の中でドラコン賞やニアピン賞でも素晴らしい記録が出ていました。

その他の成績は次のとおりです。（敬称略）

個人の部

●グランドシニアの部

優勝 三戸 道雄 (57期)
準優勝 戸坂 武史 (54期)
3位 深川 吉勝 (61期)

●シニアの部

優勝 岩屋 憲二 (67期)
準優勝 増田 俊明 (68期)
3位 吉田 晃 (68期)

●一般の部

優勝 小野 裕和 (81期)
準優勝 有田 新一 (80期)
3位 安川 淳志 (94期)

●レディースの部

優勝 小野 輝子 (53期)
準優勝 小川三穂子 (58期)
3位 松尾 薫枝 (60期)

皆様のおかげをもちまして、ご参加いただいた方には大いに懇親を深めていただき、無事に大会を終えることができましたことをここにご報告申し上げます。（88期ゴルフ委員長 島崎晃一）



団体優勝した68期のみなさん

百二十年の歴史の中で

組織委員長 日 高 教 夫 (64期)

85年前、我々と同じ母校東筑の校舎で学び、一本松のグラウンドで汗を流していた遠賀町出身の古野繁實先輩(第35期)がいたことを皆さんはご存知でしょうか。

東筑中学から海軍兵学校へ、卒業後1941年祖国のため23才で勇敢にも戦死して逝った、我々の大先輩がいました。九軍神の一人でした。当時は軍神と祀られ、戦後は世情が一変し、歴史の中に忘れられています。しかし今でも防衛大、海上自衛隊では東筑と言えは古野少佐と言われる程今なお尊敬されています。この平和な日本の礎となった古野先輩の事は、忘れてはならないと思います。今遠賀の地でひっそり眠っています。一度お参りしてはいかがでしょうか。

現在、北陸・上越東筑会が結成されつつあります。その地域の方は是非ご参加下さい。東筑の輪を広げていきたいですね。

さて、今年度より東筑会会長に深田高一先輩(62期)が就任されました。新しい会長に期待します。

組織委員会のメンバーは前年と変わらず副委員長に吉松秀雄(78期)、委員に竹内容子(76期)、松尾康徳(84期)、三原朝利(94期)です。5名で今年度も頑張っていきますのでよろしく！

東筑同窓の絆を深め、

読みやすい会報づくり

会報委員長 青 野 元 昭 (70期)

東筑会関係の皆様方には、東筑会報の内容充実のために、積極的な投稿をいただき、いつも感謝しています。

母校東筑高校野球部は、昨年夏と今年春の甲子園大会への連続出場という快挙を成し遂げました。東筑開校120周年に花を添えてくれました。「本気の文武両道・本気の東筑魂」というスローガンのもと、東筑の伝統である文武両道がしっかりと母校に受け継がれています。

本誌「東筑会報」では、現在の東筑高校の様子から、東筑会の組織、各地区からの活動状況、各期だより等を掲載しています。年々投稿数も増えてきており、東筑会同窓の強い絆を感じているところです。

会報委員会のメンバーは、私の他、貞末敏郎(57期)、柳本昭子(76期)、石井紀子(81期)の3名の委員です。皆様方に東筑会の活気や活力を感じていただき、また、読みやすい紙面になりますように、会報委員で協力していきたいと思っています。ご支援の程、よろしくお願いたします。

新財務委員会です。よろしくお願いたします。

財務委員長 三 宅 正 輝 (71期)

新執行部で、再び財務委員長を拝命した、71期の三宅と申します。東筑会の健全な運営のためには、会費収入の安定が必要不可欠なことは論を待ちません。

現実には甲子園出場の好影響もあったのか、納入率が若干の改善を見せたものの、相変わらず苦しい会務運営が続いております。「この現状が少しでも快方に向かうようにせよ」と、委員長の大役を仰せつかったものと改めて身が引き締まる思いです。

十分に議論を尽くして、いい結論が出せればいいなと思っています。今後ともよろしくお願い申し上げます。

財務委員会の新メンバーは次の方々です。

副委員長 林 良彦くん(71期)
委員は 石 神 務 先 輩 (69期スーパードライザー的立場)
中野優子さん(72期) 吉田真理子さん(72期)
加来千里くん(79期) の各氏です。

なお、打和 寿美恵先輩(70期) 佐々木 夫紀子さん(71期)には前期委員として、大変お世話になりました。心からお礼を申し上げます。

平成29・30年度 年会費納入状況

平成30年4月30日現在

期	29年度	30年度	期	29年度	30年度	期	29年度	30年度	期	29年度	30年度
28	1		50	84		72	63		94	13	
29			51	93		73	57		95	19	
30			52	72		74	52		96	20	
31			53	88		75	43		97	18	
32	1		54	112		76	60		98	20	
33			55	84		77	45		99	16	
34			56	110		78	52		100	20	
35	1		57	134		79	35		101	20	
36			58	113		80	30		102	19	
37	1		59	118		81	36		103	23	
38	3		60	93		82	46		104	2	
39	4		61	60		83	27		105	1	
40	5		62	97		84	46		106		
41	1		63	105		85	43		107		
42	11		64	85		86	30		108		
43	3		65	86		87	57		109	1	
44	11		66	81		88	57		110		
45	14		67	76		89	20		111	1	
46	19		68	81		90	19		112	1	
47	18		69	86		91	17				
48	31		70	67		92	22				
49	64		71	68		93	16				
									計	3,248	

○平成25・26年度納入4,266人 ○平成27・28年度納入4,120人
◎平成30年度から104期生の年会費納入が開始されます。

母校合格近況

平成30年度合格者

国立大	北海道大	東北大	筑波大	埼玉大	千葉大	東京大	東京外国語大	東京海洋大	東京工業大	一橋大	横浜国立大	静岡大	名古屋工業大	京都市大	大阪大	神戸大	奈良女子大	広島大	山口大	愛媛大	福岡教育大	九州大	九州工業大	佐賀大	長崎大	熊本大	大分大	宮崎大	鹿児島大	その他国立大	公立大	都留文科大	名古屋市立大	京都府立大	大阪府立大	北九州市立大		
212	1	1	4	1	1	5	1	1	2	1	1	1	1	4	5	4	1	15	16	1	5	73	20	3	10	18	3	3	3	9	1	39	1	1	1	1	1	13
九州歯科大	福岡女子大	福岡県立大	その他の公立大	防衛大	海上保安学校	私立学	学習院大	慶応大	駒澤大	中央大	津田塾大	東京理科大	日本大	法政大	明治大	立教大	早稲田大	京都外語大	京都女子大	同志社大	立命館大	関西学院大	近畿大	神戸学院大	久留米大	西南学院大	九州産業大	福岡大	産業医科大	その他の私立大	その他	1	68	14	64	2	45	
3	7	4	8	9	8	1	344	4	2	2	8	1	14	3	2	9	2	10	1	2	21	37	5	13	13	2	1	45	2	64	14	1	68	1	1	1	1	13

公益財団法人

東筑奨学会 支援のお願い

会員の皆様には平素から東筑奨学会に対して多大なるご尽力を賜り厚くお礼申し上げます。

さて、公益財団法人「東筑奨学会」は、学業成績が特に優れた生徒の範となるもの、部活動で全国大会優勝・出場またはこれに準ずる成績をあげたもの、或いは、向学心に燃えながらも経済的理由等により苦慮している生徒たちに奨学金を支給し、教育の振興に寄与することを目指しています。

ご存知のとおり、その財源につきましては預金利子と皆様方のご寄付で成り立っておりますが、近年の低金利等の影響を受け、最近では、奨学金支給額が約300万円に対して預金利子と寄附金の合計金額が約200万円という状況で、基金が少しずつ減少し、円滑な奨学金支給が難しい状態になってきています。こうした状況をご理解のうえ、21世紀を担う有徳の青年育成を目指す東筑高等学校の教育の充実と健全な校風の振興を援助し、更なる発展、活躍を期するため、多くの皆様方のご理解とご協力をお願いいたします。

また、当会は平成27年4月1日から「公益財団法人」としてスタートし、ご寄付いただいた方には本奨学会が発行する領収

書を添付すれば、所得金額から税法で規定された金額が控除されますし、土地、建物、株式などの資産を寄付していただいたものとして国税庁長官の承認を受けたときは、この所得税について非課税とする制度が設けられていますので、ご寄付が以前よりしやすくなっております。

最後になりましたが、今年6月の理事会におきまして、前小野 晃理事長の後任として東筑奨学会の代表理事に就任しました高山 和幸と申します。今後とも皆様方の変わらぬご支援ご協力をよろしくお願いいたします。

公益財団法人 東筑奨学会

代表理事 高山 和幸

事務局

〒807-0831

北九州市八幡西区則松

二丁目2番24号

福岡県立東筑高等学校 東筑会館内

電話 093-603-6815

※奨学基金へのご寄付は、左記口座へ振込みください。ますようお願い申し上げます。

福岡銀行 折尾支店
普通預金 1321864
西日本シティ銀行 折尾支店
普通預金 1735106
遠賀信用金庫 折尾支店
普通預金 1129508
福岡ひびき信用金庫 折尾支店
普通預金 1238299
振込口座名
公益財団法人 東筑奨学会
代表理事 高山和幸

平成29年度寄付者(敬称略)

- 花岡俊彦(前校長)
- 株式会社ドーワテクノス
- 東筑高校PTA
- 東筑高校母の会
- 東筑会総会時
- 東筑会ゴルフ大会時
- 関西東筑会 ● 広島東筑会
- 芦屋東筑会 ● 岡垣東筑会
- フレンドリー鞍手町東筑会
- 北九州くきのうみ東筑会
- 水巻東筑会 ● ひのくに東筑会
- 高嶋康年(49期) ● 坂本達夫(57期)
- 匿名希望(57期) ● 梶山英明(58期)
- 岩崎貞子(59期) ● 大崎好一(59期)
- 三原征彦(61期)

5,919,037円(21件)



開校記念種目 倒立競争(男子全員)



3年生パネル 光輝燦然



百足競争(男女選抜)



2年生パネル 疾風迅雷



俵さし(男子選抜)



1年生パネル 熱烈峻厳

平成30年度

東筑高等学校

創立120周年記念

体育祭

テーマ 凛

魅せる 120周年の東筑

新たな時代へ



創立120周年・大還暦の記念すべき東筑高校体育祭が、平成30年9月10日(月) 母校グラウンドで行われた。多くの来賓、保護者を迎えて、全生徒千余名は日頃から培った底力をいかに発揮し、東筑生の心意気を示した。

東筑百二十周年 「大還暦」を迎えて

東筑高校は、今年120周年を迎えました。その節目の年を記念して、学校と東筑会が協力して様々な記念事業が企画・実施されました。記念誌の発刊、講演会、記念式典、生徒記念発表、ラグビー招待試合、学校施設の充実等、様々な事業が実施され、東筑生も大活躍でした。特に、今春の選抜甲子園大会への野球部の出場、県立山口高校を招いてのラグビーの招待試合、記念式典当日の生徒発表等での東筑生は、一層の輝きを見せていました。

招待試合を終えて

ラグビー部顧問 畑井雅明

平成30年5月3日、五月晴れの素晴らしい天候の下、高山和幸東筑会会長をはじめ、多くの来賓の方々、保護者の方々、全校生徒の盛大な応援に包まれた中で創立120周年記念招待試合を実施できましたことに深く感謝申し上げます。

本校創立120周年記念事業の一環として我々ラグビー部も招待試合を実施することとなり、伝統や校風、部活動実績や進学実績などにおいて本校と同じような背景を持ちながらも、一昨年から2年連続花園(全国大会)に出場している山口県立山口高等学校のラグビー部を招待して記念試合を実施させていただきました。試合開始直後から個々人がしっかりと身体を当てて激しいプレーをしてくる山口高校のスタイルに苦戦した場面もありましたが、FW・BK共に冷静に対応でき、特にBKのライン攻撃で有効に前進することができた結果、前半

を24対0で折り返すことができました。しかし後半は山口高校も徐々に実力を発揮してきて、FWのサイドアタックや巧みなBKのライン攻撃を繰り返して3本のトライを返されてしまいました。しかし我々も最後まで集中力を切らすことなく戦い抜き、最終結果は45対19というスコアでノーサイドを迎えることができました。

試合終了後は両校選手・スタッフ・レフリーを交えてのアフターマッチファンクションにて交流を深め、同じ年代・同じような境遇の仲間同士で親睦を深め合うことができた良い機会となりました。

大勢の観客と地元北九州に新設されたミクニワールドスタジアムという最高の環境の中で実施できたこの招待試合を良い形で終えることができたこの経験は選手達に大きな自信を与えてくれた結果となり、翌週から始まった九州高校総体県予選では十数年ぶりに県ベスト4まで勝ち上がる事ができました。残すは花園予選のみとなりました。残り僅かな時間ではありますが、4度目の花園出場を目指して日々精進して参りますので、今後も引き続き御声援を宜しくお願い致します。



山口県立山口高等学校を迎える招待試合
(ミクニワールドスタジアムにて)

創立百二十周年式典

生徒発表を行って

生物部顧問教諭 佐竹美恵子

平成30年6月16日(土)、生物部は120周年の記念講演において発表させていただきました。1年間をかけて研究し、その成果をコンテスト等で発表するという現在の活動形態になって15年が経ちました。記念講演ではその研究の歴史と現在の研究、これからの展望を紹介しました。

研究対象はずっと「フタホシコオロギ」です。しかし、「先輩とは必ず別の視点から研究する」というこだわりをもってやってきました。おかげで、コオロギの鳴き声に超音波が含まれていること、コオロギは24時間で1キロメートル、人のサイズに換算すると50キロメートルも動くこと、幼虫はパーソナルスペースをもっていることなど、多様なことが解明できました。それらの内容とともに、常に、生徒の素朴な疑問を出発点にし、個々人の工夫や粘り強さ、新しい発想を大切にして研究を進めていることをお伝えできました。

講演は多くの方におもしろかったと言っていただけで、嬉しかったです。日々の地道な努力が振り返ると大きな実になっていて、これからも次の世代の生徒に引き継がれていくことを心から期待しています。



創立百二十周年

記念式典で発表して

ESS 3年8組 野口千聡

今回の私のスピーチのタイトルは「命の大切さ」です。2年前の相模原の障がい者施設での事件で、障がいを持つ人への命の価値を否定する犯人の言葉にショックを受け、このスピーチの内容にしました。障がいを持つ人との暮らしは私たちの心を豊かにしてくれ、命の価値に優劣はないのだということをたくさんの人に分かってもらいたかったからです。スピーチの内容が個人的で、英語だったので、みんなに受け入れてもらえるか最初は不安でした。しかし、スピーチ終了後、たくさんの方から前向きな感想をいただくことができ、障がいを持つ人への偏見や意識を少しでも変えたいという私の思いが、身近な人たちにわかってもらえた実感できてうれしかったです。

最後になりましたが、このような東筑高校の記念すべき日に発表の機会を頂いたことに心より感謝申し上げます。ありがとうございました。



甲子園、再び

野球部部长 山本哲也 (82期)

今春の選抜甲子園大会出場に際しましては、昨夏の甲子園出場に続き、多くのご支援・ご声援をいただきまして衷心よりお礼申し上げます。ありがとうございます。

昨秋の九州大会ベスト4という結果が評価され、選抜甲子園出場の吉報が届いたのが1月26日でした。報道陣で埋め尽くされた校長室で、日本高野連からの電話を中島校長が受け、出場決定の報はすぐにグラウンドにいる選手たちに伝えられました。20年ぶりの春の甲子園出場、しかも本校史上初の2季連続の甲子園出場であり、学校関係者のもとより、地域の方々、卒業生の方々にも大いに喜んでいただきました。

慌ただしかった夏に比べ、春は大会までの期間が長い。ため準備は静かに着々と進んでいきました。2月16日には本校体育館で選抜旗の授与式が行われ、選抜旗が毎日新聞社から高野連会長、中島校長、松山主将へと手渡されました。2月27日には福岡県庁、3月12日には北九州市役所を表敬訪問。学校で平成29年度の修了式が行われている3月16日には、大阪で組み合わせ抽選会が行われ、大会初日だけは引いてくれるなどという多くの方々の願いも虚しく、松山主将がまたしても初日、しかも東北チャンピオンの聖光学院との開幕試合というくじを引きました。

3月19日、学校での出発式を終え関西入り。あいにくの雨模様で、高野連から割り当てられている屋外のグラウンドが使用できず、民間の大きなバッティングセンターを貸し切って室内での練習を行いました。翌20日は甲子園練習でしたが天候は回復せず、室内練習場(ブルペン)で体を動かし、

グラウンドでは守備位置の確認と記念写真撮影だけが行われました。翌21日も雨。夏もお借りした京都にある立命館大学の室内練習場へ2時間かけて移動し、室内ながらやとダイヤモンドで内野ノックをすることができました。22日は午前中、甲子園球場で開会式のリハーサル。雨は上がったものの、グラウンド状況不良のため、全員での入場行進は行われず、主将だけがグラウンドの端を歩くという変則的なものでした。午後は割り当てられた津門中央公園野球場に移動し、全員で水取りを行った後、甲子園入りして初めて屋外で練習することができました。

そして、迎えた23日の開会式、開幕戦。台風に見舞われた昨夏とは違って快晴となりました。1塁側だったため、晴れ晴れと行進する選手たちの雄姿を東筑大応援団の皆さまに間近で見いただくことができました。このことは、出場36校中、本校だけが浴することのできる幸運でした。我々も開会式をベンチの中から見るという貴重な経験をさせてもらいましたが、試合につきましてはみなさんご存知の通りで、全国の強豪校とも渡り合えるという自信はつきましたが、またしても「皆さまと甲子園で校歌をー」という宿題を残してしまいました。

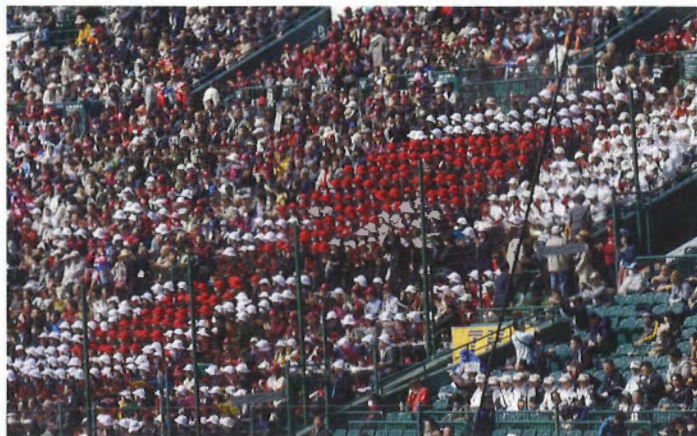
長い準備期間を経て迎えた選抜大会は、5泊6日というあつけないものとなってしまいました。昨夏同様全国から集まった東筑関係者で埋ったアルプス席を目の当たりにし、東筑の歴史と伝統、「東筑愛」の強さを再認識することができました。

奇跡の3季連続が期待された今夏は初戦敗退という結果に終わってしまい、改めて

高校野球の難しさを痛感させられましたが、また新たなメンバーで、甲子園に残してきた「忘れ物」を取りに行けるよう練習を重ねてまいります。今後とも変わらぬご声援をよろしく願います。



聖光学院との試合を終えて



「T」の文字が浮かぶ東筑アルプススタンド



東筑生の先導による選手団の入場

20年ぶり3回目の 選抜甲子園出場に大感謝

東筑会 会報委員会

昨夏の第99回高校野球選手権大会に続き、今年の春の選抜甲子園出場。実に20年ぶり3度目です。しかも、「東筑大還暦」120周年という記念の年の甲子園出場。東筑同窓として、これほど嬉しいことはありません。

学校や同窓会はもちろんですが、地域あげての盛り上がりも大きなものでした。

「がんばれー東筑高等学校」と書かれた大きな堀川沿いの横断幕が出ていました。また、折尾駅西口には、大きな看板がかけられていました。地域に根ざした母校東筑の存在感を強く感じた光景でした。

堀川沿いの東筑への
応援風景



さて、3月23日の第90回記念選抜高等学校野球大会当日です。甲子園球場前では、東京東筑会や関西東筑会等の地域東筑会をはじめとした東筑会関係者が、チケット配布をはじめ大変精力的に動かれていた様子を目にしました。東筑同窓の行動力と、強い絆を感じました。

アルプススタンド目前を行進



さて、いよいよ開会式です。「今ありて」(阿久悠作詞、谷村新司作曲)の入場行進曲に合

わせて、いよいよ東筑選手団の入場! 東筑の元、実に堂々たる態度での選手団入場。

その行進に、大きな歓声と拍手が聞こえます。それも、そのはず。東筑は開会式直後の第一試合ゆえ、一塁側アルプススタンドは東筑大応援団でいっぱいなの



堂々たる東筑選手入場行進



Tの文字が美しい超満員のアルプススタンド

堂々たる態度で最後まで懸命に戦い抜いてくれました。大応援団の前には、惜しみない大きな拍手や激励の言葉が送られました。応援している同窓からは、



頑張った選手に万雷の拍手



大きく見えた開会式での東筑選手団

です。快晴のすみ渡る青空の元、響き渡る大歓声と大拍手には、大変感動しました。福島聖光学院との試合はシーズンゲームの大熱戦。同点で迎えた2回裏の東筑高校の校歌斉唱は、世代の一体感が高まり、青空が突き抜けるようでした。超満員のアルプススタンドからの必死の応援は最後まで続きました。最後に校歌を歌うことはできませんでしたが、東筑の選手達は、正々



最後まで大声援がこだました応援席

「アルプススタンドが東筑の同窓会」、「甲子園に出場してくれるから、みんなと会える」、「全国でわずか36校という狭き門、しかも公立高校」、「夏も春も2回も続けて出場してくれた」等の東筑会の甲子園出場に感謝する声が多く聞けました。また、幅広い年齢層の応援風景は、東筑の120周年という長年の歴史と伝統を感じました。

昨年の夏、今年の春の甲子園2大会連続出場、本当にありがとうございました。これからも、文武両道を地で行く東筑高校を、大いに応援していきたいものです。

平成29年度 国内ジニアス研修

東筑高校教諭 福岡英子

本校SSH事業の1つである国内ジニアス研修が12月16日(土)・12月19日(火)、3泊4日の日程で実施されました。本年度は定員の倍の希望者が集まり、生徒がこの研修に期待するものが大きいことを実感しました。

研修初日は福岡から東京に移動し、東京大学へ向かいました。東京大学では、JatWinmの方が計画を立てて下さり、施設見学、東筑の生徒のためだけの東大教授による模擬授業(大学院教育学研究科教育学部景浦教授「言語について」・大学院理学系研究科理学部深田吉孝教授「体内時計について」、東大生との懇談会など盛り



景浦教授による模擬授業(東京大学)



船木さんによる話(日本科学未来館)

だくさんの内容でした。時間が経つのを忘れ、勉強の方法や東京大学の魅力など積極的に質問していました。生徒たちにとって有意義な時間だったようです。

2日目は、日本科学未来館、国会議事堂、代々木公園、NHK文化センターを見学しました。日本科学未来館では「MOVIE生き物になれる展」が開催されており、テレビでも取り上げられている企画が自分たち

の先輩が手掛けたものであることに生徒は大変驚いていました。また、その企画者である船木展子さん(86期)に直接お会いすることができました。生徒たちにとって、とても良い機会になったと思います。

国会議事堂では、衆議院議員三原朝彦さん(64期)にお会いすることはできませんでしたが、秘書の中村さんがとても丁寧に案内してくださいました。テレビでしか目にするのではない世界が、目の前に広がっていることに大変興奮しているようでした。代々木公園やNHK文化センターは億谷和彦さん(74期)が、生徒のために予約から案内まですべて行ってくださいました。とても充実した一日を過ごすことができました。



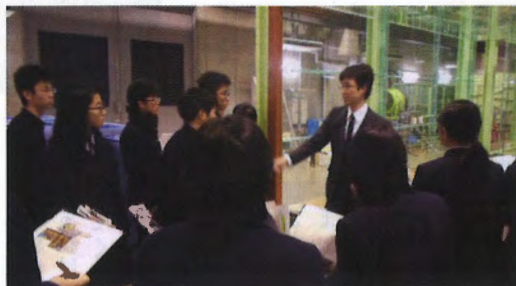
FCR授業体験(内田洋行)

3日目は、企業訪問ということで、内田洋行、三菱UFJリサーチ&コンサルティングを訪問させていただきました。内田洋行では取締役会長柏原孝さん(67期)にお会いすることはできませんでしたが、FCR授業体験やデジタルコンテンツシタター体験、オフィス見学などをさせていただきました。生徒たちは、最先端のシステムに大変驚き、興味を持って多くのことを体感していました。三菱UFJリサーチ&コンサルティングでは西村耕さん(85期)、田村浩司さん(87期)、熊井秀臣さん(102期)が資料を準備し、コンサルティングについて生徒にもわかりやすく説明していただきました。また、株式会社ソニーより萩

原有二さん(85期)も来てくださり、講演をしてくださいました。その後、京都へ移動しました。

最終日は午前中に京都大学桂キャンパスを訪れ、午後は吉田キャンパスへと移動しました。桂キャンパスでは、大学院工学研究科野口恭平助教(106期)の協力により多くの研究室や研究施設を見学させていただきました。規模の大きさ・レベルの違いに大変驚いているようでした。また、多くの院生が生徒との食事会に参加してくださりグループに分かれ楽しそうに会話や食事をしていました。

吉田キャンパスでは、京都大学法学系(大学院法学研究科)原田大樹教授(94期)の3人の院生が原田教授の授業見学や院生の研究室を案内してくださり、理系の研究室と文系の研究室の違いに生徒は驚きを隠しきれない様子でした。そのうち、原田大樹教授も加わり懇談会を設けてくださり、いろいろと質問していました。



野口助教による講義(京都大学)



田村さんによる講義(三菱UFJリサーチ&コンサルティング)

初日と3日目には東京東筑会と関西東筑会の先輩方が歓迎会を催してください。多くの先輩方が参加し、生徒たちいろいろとお話してくださいました。お忙しい中多くの先輩方が生徒のために場を設け、時間を作ってくださいありがとうございました。

今回この国内ジュニアス研修に参加した生徒は、先輩方の偉大さを痛感し、東筑生としての誇りを改めて感じていたようです。生徒たちは研修で得たことを自分の糧にするだけでなく、他者へ伝えるため報告書を作成したり、文化祭で発表したりしております。また、後輩へ参加を促したりしているようです。もちろん、本人たち自身も自分の目標を設定し日々の学校生活を邁進しております。今年度は昨年度より多い30名の生徒が参加しましたが、多くの先輩方のご支援ご協力により有意義な4日間の研修が無事終了されたこと、心より感謝申し上げます。誠にありがとうございました。



原田教授と懇談(京都大学)

平成29年度

グローバルジュニアス研修 in USA

Seeing is believing.

かけがえのない国際体験

東筑高校教諭 中川秀子

本研修は、SSH事業の一つとして平成26年度より実施し、今回で5回目となります。平成30年3月4日から10日までの日程でノースカロライナ州やワシントンDCを訪問しました。118期12名が、英語で同世代の高校生と交流し、最先端の医療や科学技術に触れ、世界で活躍する日本人に出会い、日本の外交や経済について海外の一流の専門家から講義を受けるという、日本では決して得られない体験を重ね、文字通り視野が広がり、内面的に大きく成長する機会を得ることができました。

参加生徒は11月からの事前学習に取り組み、訪問先の施設や大学などについて調べ、また、英語で興味あることについてプレゼンテーションを行う準備をしました。英語でのプレゼンテーションは、12月のイングリッシュキャンプで発表することを中間目標として進めました。キャンプでは、生徒3〜4人に対して1人のネイティブスピーカーに指導して頂き、2日間で生徒の表現力は格段に向上しました。

3月4日に東京を発ち、ミネアポリスを経由し、約24時間かけて最初の目的地ダラムに無事に到着しました。研修初日の午前にノースカロライナ大学(以下UNC)チャペルヒル校のキャンパスツアーに参加しました。UNCは1789年に創立された米国最古の州立大学で、広大な敷地内を法学部の学生に案内してもらいました。生徒にとっては現地の学生と初めてコミュニケーションをとる良い機会になりました。

その後、医師であるクリシー・キスラー博士から「米国の高齢者医療」や「家庭医の診療方法」について講義を受け、UNC付属病院を見学しました。専門用語の多い内容でしたが、生徒は熱心に聞き、積極的に質問をしていました。午後は、生徒がプレゼンテーションを行うイーストチャペルヒル高校を訪問。現地で日本語教育に携わっている青柳好美先生には、生徒同士で交流が図れるように、一緒に昼食をとり、授業を見学する機会を設けて頂きました。その後のプレゼンテーションでは、高校生からの温かいコメントや青柳先生からのお褒めの言葉を頂き、今後の英語学習の励みにもなる心に残る経験ができました。

2日目は理系の名門大学であるバージニア工科大学を訪問。村山光宏教授をはじめ研究員の方からナノ粒子に関する実験や走査型・透過型電子顕微鏡の操作についてご教授頂きました。生徒たちは最先端の科学技術に触れ、とても感銘を受けていました。3日目はワシントンDCへ移動し、日本大使館を訪問。ニュースで見聞きする程度でしか知ることのできない外交官の仕事について、大使自ら講話をして頂き、生徒たちは自分の将来を考える際の貴重な指針を得ることができました。4日目は午前中にスミソニアン博物館を見学し、アメリカが誇る宇宙科学・産業などについて見聞を広げました。最後の研修先であるブルッキングス研究所は、米国屈指のシンクタンクで、日本の対外・外交経済政策などが専門のミ

レヤ・ソリス氏から国際関係論について講義を受けることができました。生徒は、ソリス氏の説明に熱心に耳を傾け、質問をし、積極的に意見交換を図っていました。

本研修で訪れた高校・大学・研究機関・大使館で、どの関係者の方々も東筑生を快く受け入れてくださり、グローバル社会を生き抜く高校生の将来を考慮したご教授・ご助言をしていただきました。このような研修が実現したのは、企画段階から実施に至るまで、東筑会をはじめ同窓生の方々の様々な面でのご支援があったからこそであり、感謝の念に堪えません。この場をお借りしてお礼申し上げます。



ノースカロライナ大学にて

第5回

「ようこそ先輩」講演会を終えて

恒住典子 87期(旧姓 梅木)

第5回「ようこそ先輩」講演会が6月9日(土)に開催され、87期を中心に多方面に渡る職種(法律・メディア・医療・環境・社会奉仕等)の卒業生が講師となりました。講師の紹介文を見ると、専門性が高く、耳馴染みのない職種もあって「自分が聞いて参考にしたい」と思う興味深い内容が並んでおり、現役生の皆さんも楽しみにしていたくれたようです。

教員である私は「社会奉仕」分野として「教員に向いている人」になるには」という演題でお話をさせていただきました。現役生の皆さんは、熱心にメモを取りながら聞いてくれました。生徒にとつて最も身近である教員という仕事ですが、「教員に向いている人」とはどのような性格・スキルを持った人か、それらを身につけるためには、専門教科の学びだけでなく高校・大学時代に幅広い知識と経験を積むことや、世の中の動きにアンテナを張っておくことが大切であること等を裏話も交えて語りました。教員志望の現役生が「頑張って」教員に向いている人」になりたい」と感想を書いてくれたことは喜ばしいことでした。

各教室での講演はどれも有意義なものとなったようです。その後の希望者が集まった座談会では、講演の内容を受けて多くの質問で盛り上がり、現役生の率直な疑問に講師も一つ一つ真摯に答えていきました。常に疑問を持ち、貪欲に学ぼうとする姿勢に東筑生らしさを感じました。講師たちの、就職して二十数年のキャリアを積んできたからこそその具体例

を交えた深い回答が、現役生の心に響いていたようです。どの講師も「どんな仕事に就くとしても高校時代にできるだけ多くのことを学んでおく必要がある」と説いて、現役生にエールを送りました。これからの世界を背負って立つ現役生が、今回の講演をきっかけに夢の実現に向けて羽ばたいてくれることを願っています。



各地区東筑会だより

東京東筑会

昨年夏から今年の春まで続いた甲子園ファイバーも終わり、また20年後かな?寂しくなりつつあるところに、今年も囲碁部から、第42回文部科学大臣杯全国高校囲碁選手権全国大会に出場決定との連絡が入り、7月23・25日、東京市ヶ谷の日本棋院に駆けつけました。今年は団体戦で強豪の東京代表 駒場東邦高校をやぶったものの愛知の旭丘高校に惜しくも敗れ、個人戦も北海道の強豪選手に惜敗、あと一步のところまで決勝トーナメント進出を逃しましたが、大健闘でした。特に、主将の佐々木君(2年生)が対戦する時には、強豪同士の対戦として、メディアを含めたギャラリーが大勢集まってくるのは圧巻のシーンでした。

もう一つ、毎年東京の行事で本校の1年生が東京にやってくる、国内SSH ジーニアス研修のご紹介をします。ご存知の方もたくさんいると思いますが、当会では年長者から大学生OBまで、大騒ぎの年末行事の歓迎会が2017年12月16日(土)、日本青年館ホテルで開かれました。在京OBもこの日はやはり、忘年会などで忙しい中で、最大限スケジュールを調整して参加してくれました。

東京大学見学、企業2社(内田洋行、三菱UFJリサーチ&コンサルティング)訪問の他、日本科学未来館でOBがディレクターを務めた「MOVE生き物になれる展」見学と大忙しでした。生徒の感想から、それぞれ気づいた点を挙げると、

- ・東京大学・大学レベルの難しい模擬授業内容を理解しようと一生懸命。
- ・内田洋行・「Future Class Room」、未来の教室がこうになればいいな。
- ・三菱UFJリサーチ&コンサルティング..

コンサルタントの仕事は難しそう。

残り1日は、東京の社会見学で、NHKスタジオパーク、前回1964年開催の東京オリンピックの施設などを見学して、東京を後にしました。

今年も、12月13日頃に来る予定とのこと、また歓迎しますよ!

事務局長 億谷和彦(74期) 記



国内SSH ジーニアス研修国会議事堂にて(注. 逆光により議事堂を背に撮影)

上総東筑会

第28回上総東筑会総会・懇親会は、3月9日(金)に東筑会 高山 和幸会長(56期)、東京東筑会 億谷 和彦事務局長(74期)ならびに上中 修司氏(88期、当番期)、日野山 暢子氏(同)を来賓としてお迎えし、



第28回 総会・懇親会(君津市 ホテル千成)

参加者14名で千葉県君津市のホテル千成で開催致しました。千葉県の上総地区(君津、木更津、富津、袖ヶ浦)ならびに千葉市在住の57期(S34年卒)から102期(H16年卒)と幅広い年代の方に参加頂いております。最近では、現役世代の参加者が増えています。

総会では、松永久義会長(68期)の挨拶、高山会長の来賓挨拶の後、審議事項である会計報告、予算案の審議、承認を行いました。

初参加の方の自己紹介や近況報告、当番期からの東筑会総会、東京東筑会総会の紹介を行いながら、当時の話に花が咲きました。年代が違っても同じ地域で暮らしたり、同じ部活に所属していると、相通じるところがあるようです。

最後に応援団出身の藤川秀樹さん(78期)のリードで校歌斉唱、エールを行い、会を締めくくりました。

参加頂いた方、近況をご連絡頂いた皆様

平成30年1月20日(土)は「日本海庄や」にて新年会を開催、17名が参加しました。世代を超えて大変盛り上がり、楽しいひと時を過ごしました。

そして、なんとと言っても目玉のイベントは、3月23日(金)の第90回選抜高校野球(甲子園)応援バスツアーです。武藤会長(60期)にお取り計らい頂き、貸切バスを手配して、会員とその家族12名で後輩たちの応援に行きました。惜しくも試合は負けてしまいましたが、仲間と一緒に応援できて非常に興奮しました。

平成30年度第32回東海東筑会総会を4月22日(日)に「ホテル・ルブラ王山」にて開催致しました。東筑会会長(当時)の高山和幸氏を始め、当番期88期副会長の川地啓輔氏、東京東筑会当番期事務局長補佐の柴田恭平氏、関西東筑会懇親会当番期実行

東海東筑会

どうもありがとうございました。上総地区ならびに千葉県在住のOB、OGの方、是非来年の上総東筑会にご参加下さい。

事務局 高浜義久(88期) 記

平成29年から平成30年にかけての活動を報告致します。

昨年8月27日(日)、納涼会「ぎふ長良川鵜飼観覧」を開催し、15名が参加しました。船乗場で鵜匠による説明を受けた後に乗船、船の上で食事をした後、鵜飼を観覧しました。鵜飼観覧は初めてという方も多く、1300年以上もの歴史のある伝統文化に触れ、その勇壮な姿に酔いしれました。

11月11日(土)は、第19回テクテク会と称し、「半田の街並み散策 ミツカンミュージアム見学ツアー」を開催し、お子様を含む19名が参加しました。愛知県半田市を舞台に、赤レンガと運河の街並みを散策し、酢の醸造の歴史に触れ、知多の酒肴を味わいました。



家族を含め過去最多50名の第32回総会・懇親会(名古屋市 ホテル・ルブラ王山)

委員長の竹下宏樹氏にご参加いただき、54期から110期までの幅広い世代の会員とそのご家族も含め総勢50名という過去最大規模の大変盛況な会となりました。総会では、中松副会長(78期)の進行により、昨年度の行事報告、収支報告、本年度の役員選出、行事計画、予算案などが承認されました。引き続き、懇親会では土橋幹事長(72期)の進行により、高山会長の乾杯に始まり、しばし歓談の時間を過ごした後、恒例のビンゴゲームで大いに盛り上がりま

関西東筑会

5月26日(土)、平成30年度関西東筑会総会・懇親会を京都「からすま京都ホテル」で開催しました。例年とは異なる京都での開催で、当番期一同参加者数を心配しておりましたが、当番期を含む参加総数は216名と過去最多規模となりました。

総会後の懇親会では、富永純二会長(66期)の挨拶に続き、東筑高校校長の中島良博先生(76期)、東筑会会長の高山和幸様(56期)、東京東筑会会長の柏原孝様(67期)、本校当番期副会長の川地啓輔様(88期)の来賓の方々よりご挨拶をいただきました。その後、橋本磯先輩(52期)の乾杯ご発声とともに開宴となりました。

学生の皆さんにも多数参加いただきました。15名の大学生全員に登壇いただき、自己紹介と将来の夢について話していただきました。今年の懇親会の話題は、なんとと言っても昨夏・今春の二期連続甲子園出場です。お楽しみコーナーでも「センバツ甲子園、再び」と題したクイズが行われました。昨夏・今春に甲子園球場アルプススタンドで撮影した映像を交えながら、過去の東筑の甲子園出場をクイズ形式で振り返りました。優勝した63・64期テンプルの参加者には、賞品として「くろがね堅パン」が贈呈されました。

した。最後に、東京よりご参加の億谷和彦氏(74期)、進京一氏(76期)、関西よりご参加の中司輝清氏(88期)、服部(85期)の演奏で校歌を高らかに斉唱し、盛会のうちに幕を閉じました。

東海東筑会は、今年度も引き続き世代を超えて交流し、活気あふれる会となるよう努めてまいります。

東筑会のますますの発展を祈念しております。

事務局 服部悦子(85期) 記



大学生を含め過去最多216名の参加の平成30年度 総会・懇親会(からすま京都ホテル)

今年も、懇親会のクライマックスは恒例の校歌3番までの斉唱です。応援部OBの方々に登壇いただき、現役大学生の応援部女子OBの力強いエールで、長い長い校歌を3番まで歌い切りました。

関西当番期からの御礼の挨拶の後、来年度当番期の河部伸治代表(86期)へ引き継ぎが行われました。13名の86期生に登壇いただき、河部代表から力強い決意表明が行われ、新しい元号で初めて迎える来年度の総会・懇親会は5月25日(土)に大阪キャッスルホテルで開催されることが発表されました。

最後は、鶴崎伸一郎副会長(72期)から閉会のお言葉をいただき、閉会となりました。

広島東筑会

今年も、他地域からの応援を含め総勢59名で当番期を務めました。何かと分らないことも多く、出席頂いた方々には不自由をおかけした点も多々あったかと思いますが、諸先輩方の温かいご指導・ご協力のおかげで何とか無事に終えることができました。この1年間、当番期活動を通じて同期同士の新しいつながりも生まれる等、素晴らしい経験させていただきましました。当番期一同心より感謝しております。ありがとうございました。

竹下宏樹(85期) 記

第32回の広島東筑会は平成29年11月26日広島ガーデンパレスで行われました。来賓に東筑会高山会長、中島校長、今任副校長をお迎えし、当番期からは川地副会長を筆頭に3名の役員を加え総勢47名の参加で賑やかな会になりました。

高山会長のご挨拶に続いて中島校長の近況報告がありました。その中で、東筑高校の甲子園出場をきっかけに、校内全体に「やればできる」と言う自信に満ちた雰囲気になってきている、来年度の選抜にも恐らく出場できるだろうと頼もしいご発言に会場が湧きました。

カープ・アワーではリーグ優勝2連覇を祝っての花束贈呈に引き続きカープのヘッドコーチを務める高さん(84期)からは「未だどのチームも達成していない3連覇を当面の目標として頑張っていきたい」との力強い来シーズンへの抱負が述べられ、これまた会場を湧かせました。

アーティスト・アワーでは後藤ルリ子さん(61期)の東光会入選作「マスケラ」の展示と解説、具島 孝さん(59期)のヨーロッパの自然を描いた水彩画の披露がありました。

ミュージック・アワーでは柳原さん(ピ



今年もカープで盛り上がり 第32回 総会・懇親会(広島ガーデンパレス)

アノ、74期) 田代さん(ヴァイオリン、77期)ご姉妹のバックで「津軽海峡・冬景色」を高橋会長(50期)がアルトサックスで共演し、お二人には朝の連ドラ「ひよっこ」のテーマ「若い広場」を演奏していただき、いずれも会場の拍手喝采を受けました。

当番期の面々が各テーブルを回って、6月の総会・懇親会のチケットを売り捌く行事も恒例となりました。今年も満足すべき成果を収めることができましたと聞いています。最後は、恒例のカープ応援歌「それいけカープ」「東筑高校校歌」を全員が肩を組んで合唱し、今任副校長の一本締めで賑やかな雰囲気の下、幕を閉じました。

会長 高橋昭八郎(50期) 記

ふくおか東筑会

創立60周年を迎えた今年の「ふくおか東筑会総会・懇親会」は5月26日(土) 17時から天神スカイホール(福岡市中央区天神)で、来賓に廣田東筑会副会長、今任本校副校長をお迎えして開催され、42期から103期まで150名が集いました。

総会では、今任副校長から本校の現状報告があり、続いて、恒例の会員による卓話は本年は66期の藤原健一氏に講話をいただきました。

懇親会では、まず、牛嶋会長による谷口安則先生の形見の刀での居合の演武と高取紅太鼓の演奏で本校創立120周年とふくおか東筑会創立60周年を寿ぎました。



創立60周年を迎えた平成30年度総会・懇親会(福岡市 天神スカイホール)

続いて、廣田東筑会副会長のご挨拶があり、古賀ふくおか東筑会顧問（48期）の乾杯ご発声により、祝宴が始まりました。

会場内にはご出席最年長の42期の原田勲氏のお元氣なお姿があり、また、本年の本校同窓会の当番期である88期の皆さんが多数参加されて、本校同窓会のPRに励まれています。

例年通り、ビンゴゲームとじゃんけん大会で懇親会も大いに盛り上がり、最後に校歌を高らかに斉唱して、創立60周年の節目となる今年の「ふくおか東筑会の総会・懇親会」はお開きとなりました。

富増春樹（69期）記

芦屋東筑会

会員の皆様、芦屋東筑会会長を務めさせていただいております62期の徳田徹と申します。

さて、第41回芦屋東筑会総会・懇親会は、平成29年10月28日（土）に「マリンテラスあしや」で開催いたしました。当日は、東筑高校をはじめ本校同窓会「東筑会」・近隣七つの地区東筑会より来賓のご臨席を賜り、会員と合わせ57名の出席者で会場は一杯となりました。

第一部の総会は、はじめに物故者に黙祷を捧げ、来賓の紹介・祝辞、議案の承認と恙無く終了しました。役員一同、これから情熱を持って芦屋東筑会の運営に取り組んで参る所存です。

第二部の懇親会では、校歌斉唱から始まり、歌い終えた頃には、誰もが学生時代に戻ったかの様な和やかな雰囲気となり、どのテーブルでも昔話に多くの花が咲いていました。毎年恒例の豪華賞品が当たるお楽しみ抽選会では、歓喜と落胆の音が交錯しながら、盛会のうちに終了の時を迎えました。会場の外では次回総会での再会を期し、いつまでも別れを惜しむ方で溢れ



第41回総会・懇親会（マリンテラスあしや）

年度の総会でも皆様の元氣な姿にお会いできることを楽しみに、会の運営・発展に努めて参ります。

会長 徳田 徹（62期）記

岡垣東筑会

平成30年度（第43回）総会・懇親会を、4月14日（土）「野々庵」にて開催いたしました。

当日は、高山東筑会会長、中島東筑高校校長をはじめ、近隣7地区東筑会より来賓のご臨席を賜り、また、当番期（88期）の方々の協力を得まして、総勢65名での開催でした。

来賓のご祝辞のなかで、野球部の夏・春二季連続での甲子園出場に關し、高山会長から募金に対するお礼及び募金残金の使途の報告がありました。また、中島校長先生からは、募金への謝辞に加え、野球部の甲



第43回 総会・懇親会（岡垣町 野々庵）

子園出場が良い刺激となって、他の部活動も優秀な成績が収められたとの紹介がなされました。

山浦健議長（当番期副会長）の進行のもと、29年度事業報告、決算・監査報告、役員改選、30年度事業計画、予算案等全ての議案について承認をいただき、総会は無事終了しました。

特に、今年は役員改選の年でしたが、全員留任で承認をいただきました。

引き続きの懇親会では、刀根博愛顧問（39期）の歓迎挨拶及び乾杯の発声を皮切りに、終始和やかな雰囲気の中、昔話に花を咲かせ、楽しいひと時を過ごすことができました。

最後に応援部OBの山浦健副会長のリードの下、校歌を大合唱、万歳三唱の後、来年の再会を約して幕を閉じました。

今総会で、深田会長はじめ全役員の留任が承認されたところですが、間を置かず、深田会長が東筑会会長へ推挙されることが判明しました。

岡垣東筑会から東筑会会長を輩出することは栄誉なことであり、会員一同賛意を表すことはもちろんですが、何せ2週間前に深田会長以下全員の留任が承認されており、新会長選出のための臨時総会の開催も困難なことから、緊急役員会を開催し、今後の役員体制及び運営方法について協議いたしました。

その結果、今年1年間は深田会長が岡垣東筑会会長を兼務するが、会長が出席すべき諸行事には、副会長以下が協力して代理出席することとし、新会長以下の役員体制は、来年の総会で決定することになりました。

副会長 占部義和（67期）記

遠賀町東筑会

遠賀町東筑会は昭和47年9月に発足し、現在会員は317名です。

町の東側を遠賀川が流れており、水と緑にあふれる自然豊かなところです。

毎年5月下旬の土曜日・日曜日には東筑のボート部をはじめ、九州各県の高校・大学・企業のクルーが遠賀川漕艇場に集結して九州朝日レガッタが開催されていますが、今年は併催している「おんがレガッタ」が第20回目の記念大会でした。町内外から67クルー約500名の選手が集まり、小川県知事が応援に駆けつけたなど、近年稀に見る盛り上がりを見せました。母校の「大還暦」のスケールには及ばないかも知れませんが、会場での東筑ボート部や放送委員会の生徒さんの活躍ぶりを見てみると、一緒に節目の年をお祝いしているようで、遠賀町民として東筑OBとして感慨も一入でした。

さて、本会の主な活動は、①会報の発行、②総会の開催（9月の第1土曜日）、③会員名簿の発行（3年毎）です。



第45回 総会・懇親会(遠賀川公民館)

昨年の第45回総会・懇親会は、9月2日(土)に遠賀川駅前の遠賀川公民館で開催いたしました。来賓として、高山東筑会会長、本校の中島校長をはじめ、近隣地区東筑会役員の皆様にご臨席を賜りました。昨夏甲子園に出場した野球部の主将だった安部滉平君が遠賀町出身ということもあり、例年以上の盛り上がりを見せました。

安部君は3年前の本会の会報「筑友」に、甲子園を目指すために東筑に入学したとの文章を寄稿してくれましたが、見事実現しました。「本気の文武両道」ここにありです。今後も遠賀町出身者を始め、東筑高校出身者の益々のご活躍をお祈り申し上げます。

会長 古畑善章(54期) 記

中間東筑会

平成30年4月28日(土)、なかまハーモニホールにおいて、平成30年度中間東筑会総会・懇親会を開催しました。中間東筑会は総会を隔年開催としておりますことから、1年ぶりの開催となりました。総会では諸先輩方からの叱咤激励をうけながらも滞りなく総会行事を終了しました。その後の懇親会には、東筑高校同窓会から高山和幸会長、東筑高校から中島良博校長、近隣東筑会からも多数ご臨席いただきました。懇親会が隔年開催のこともあり、また、細かい声掛けが功を奏し、市内外から沢山の同窓生にお集まりいただき、1200用意した席が不足し、主催者はうれしい悲鳴を上げることに。今回も、手作りの「おもてなし」が大変ご好評いただきました。船津革命会長の挨拶により幕を開けた懇親会は、東筑会会長・東筑高校校長の祝辞をいただき、乾杯へと進みます。2年に1回の開催でもあり、旧友との再会にはこころよく顔・顔・顔。会場は笑顔でいっぱいになり、たいへんな盛り上がりでした。

話題の中心は、やはり120周年を迎え

る本校を祝す、野球部の夏の甲子園出場に大きな期待がかけられ、かつての大エース「仰木彬氏」の同期生を中心に彼を偲ぶ話題、さらに、「高倉健氏」の記念碑の件等、話題に事欠かない会でありました。また、本会当番期である88期からも16人の精鋭諸君に駆けつけていただき、準備・接待・片付けとたいへんな戦力となりました。楽しい談笑の後には全員で校歌を斉唱し、会の締めくくりとし散会です。その後は、当番期88期の精鋭たちと役員との懇親の場へ移ります。そんな場でも真剣に、本会総会に向けた打合せに余念のない姿が印象的で、記念すべき第120回同窓会も彼らならきつちりと取り仕切ってくれるはず、と、役員誰もが顔をほころばせた楽しい会でした。

次回は2020年4月の開催予定です。当市会員以外のご参加も、もちろん大歓迎ですよ。

事務局長 船津喜久男(79期) 記

フレンドリー鞍手町東筑会

昨年10月26日、フレンドリー鞍手町東筑会恒例となっています秋の日帰りツアーを行いました。今回はトヨタ自動車工場見学と唐戸市場、下関長府の武家屋敷街散策ツアーでした。参加頂いたのは19名の方々です。

最初に訪れたのは宮若市上有木のトヨタ自動車九州工場でした。レクサスの各車種を生産するこの工場は年産43万台とのことです。生産ラインのはじめは骨のような車台に多くのロボットと多くの工場スタッフの人達とが次から次へと数千点におよぶ部品を取りつけ、そして完成車となっていく。広大な敷地に広がる工場全体が一つの生き物のように連携して稼働している姿には驚くばかりで、見学するメンバーは世界最先端の工場のあり様に感嘆しきりでした。

工場見学を終えて九州自動車道へ入り、関門大橋を渡って唐戸市場へ移動。先ほど

の自動車工場とはうって変わって多くの人で混雑する市場に入って行きました。昼食は、長府にある「宮の内茶寮」へ。ここで2時間余りの食事・宴会の時間を過ごしました。宴会を終えて武家屋敷街を散策しながら長府毛利邸へ。江戸の風情を偲ばせる土塀や石畳の街並み、手入れの行き届いた庭園は見事でした。下関市にこのような街並みが残っていることに驚いた会員も多かったようです。

続いて下関商港へ移動、関門海峡汽船で門司へ渡りました。晴れ渡った秋の空の下、



秋の日帰りツアー トヨタ自動車九州工場の見学を終えて

数多くの貨物船、漁船のほか海上自衛隊の護衛艦の姿もありました。わずか5分の乗船ですが、爽やかな海風に吹かれてなかなか印象に残るひと時でした。

このあと門司港レトロ地区をブラリとしたのち帰路につき、出発地「くらしの郷」に帰り着いたのは夕方6時前でした。こうして秋好日の日帰りツアーが終わりました。今年度もまた秋の日帰りツアーを企画しております。多くの会員の皆さんにご参加頂ければ願っております。

事務局 梶栗浩二（69期）記

北九州くきのうみ東筑会

新任ご挨拶と、本年度大会の新たな試み

昨年より当会会長を拝命致しました57期夜部榮子です。何卒よろしくお願い致します。自己紹介を兼ねてご挨拶申し上げます。顧みれば昭和50年7月に認可を頂いて保育事業に携わり始めて早43年が過ぎました。辛いこと苦しかったこと楽しく幸せに感じたことなど様々な思い出が去来致します。しかしながら苦しく辛い時ほど私を励ましてくれ慰め勇気づけてくれたのは、明るくて元気一杯、笑顔溢れる園児たちでした。私はそのような園児たちが愛おしく大好きで、私自身が元氣や意欲を頂いています。「強いからだ、やさしい心、明るくけじめのある子」を保育目標にしています。とりわけマーチングを主体とする音楽の時間は、私も園児全員と一緒に楽しんでいきます。一方、園児たちが余りに元氣過ぎて怪我をしたりすることのないように細部にわたり気を使います。あつという間に一日が終わり、夕食と共に頂くビール一杯の美味しいこと。一日を無事終えた自分への褒美でもあります。

起床後と就寝前と、仏壇に合掌する時、亡き両親が、亡き主人が見守り導いて下さっている気が致します。今日まで続けて



平成29年度総会&懇親会（ホテルクラウンパレス北九州）

来られたのも皆様のご支援ご協力のおかげでした。本当に有難うございます。感謝の気持ちで一杯です。心からお礼申し上げます。

さて、本年11月17日土曜日17時からクラウンパレスで開催予定の当会総会・懇親会においては、「東筑エール」と題する新たな時間を設けます。母校出身者で、老若男女を問わず、情熱を持って励んでいるその仕事や活動を10分間のスピーチを通じて皆様に発表して頂き、「同窓生としてエールを贈る」という「熱き同窓生紹介コーナー」です。

当会の総会・懇親会が、皆様にとって楽しく意義深いひと時となる様、微力ながらも精一杯努力して行きたいと思っています。会長 夜部榮子（57期）記

水巻東筑会

第17回平成30年度水巻東筑会総会・懇親会は、去る5月19日（土）に水巻商工会館で開催しました。母校および東筑会、近隣東筑会の来賓、東筑会総会の当番期の方々のご臨席を賜り、会員と合わせ60名の出席者で会場は一杯となりました。

前年度の事業報告、収支決算報告、監査報告、並びに今年度の事業報告案、収支予算案が提案どおりに承認されました。

懇親会では、学生時代を懐かしんで思い出話に花を咲かせ、どのテーブルも大変賑わっていました。最後に校歌を声高らかに斉唱し名残惜しい中、閉会しました。



総勢60名の出席 第17回 総会・懇親会（水巻商工会館）

次回もまた、皆様の元氣な姿にお会いできることを楽しみに、もっと多くの同窓生に参加してもらえよう会の運営・発展に努めてまいります。

事務局長 友廣大祐（90期）記

宗像東筑会

平成30年度の宗像東筑会総会・懇親会を4月8日（日）に例年通りロイヤルホテル宗像にて開催しました。

当日は日曜日にもかかわらず、東筑会及び東筑高校、近隣地区東筑会の多数の来賓、東筑会総会の当番期（88期）の方々のご臨席を賜り、盛会裏に無事終了することが出来ました。

前年度の事業報告、収支決算報告、監査報告、並びに今年度の事業報告案、収支予算案が提案どおりに承認されました。

引き続き行われた恒例の講演では、宗像市のJR東郷駅前にある「Cokata ひのさと」の館長であり、且つ宗像東筑会の副会長でもある木村 秀子氏（68期）より「日の里プラン NE X 50」（暮らしの魅力を高める再生戦略）と題して講演をいただきました。

宗像市日の里は、約50年ほど前に開発された九州でも有数の規模の大きな団地でありますが、高齢化が進み今後団地の活性化が最大の課題となっています。その取り組みの推進役として木村さんが館長に就任され、今回その内容について熱心にお話しをしていただきました。

また、懇親会では初めて参加された方にお話しをいただいたり、校歌を歌ったりして終始和やかな雰囲気で行うことが出来ました。

さて、宗像東筑会の活動としては、今年の6月、宗像市主催の市民交流まつりにバザーの出店をしました。東筑高校の幟を掲げて地域活動に積極的に参加しております。

また、秋には恒例の「宗像環境フェスタ」のリサイクルマーケットにも出店する予定にしています。ぜひ一度参加してみませんか。最後に、この会報をこらんなった宗像・福津にお住まいの東筑高校卒業のみなさん、年一回の総会・懇親会には是非ご出席いただき、よき時代を思い出そうではありませんか。ご協力宜しくお願いいたします。

事務局長 門司 剛(63期) 記



平成30年度総会・懇親会 校歌斉唱(ロイヤルホテル宗像)

ひのくに東筑会

熊本地震から2年が過ぎ、復旧のニュースが方々から聞かれるものの、まだまだ本格的な復旧・復興は先のようなです。その節は東筑会の皆様にもご支援いただきありがとうございました。報道によりますと、熊本城の石垣群の約1割が崩落、膨らんだり緩んだりした部分を含め約3割(約2万3600平米)約8万2千個の石を20年かけて積み直すとの事。大天守だけで791個で今年中には終わる予定で、このほど第1石目の約400kgの石を吊り上げ



平成30年度総会・懇親会・ミニ講演会を終えて(ザ・ニューホテル熊本)

仮置きしたとの事です。5月中旬頃には大天守の鯨も新しく取り付けられ、外部の足場も徐々に解体されつつあり、来年頃には大天守だけは完成との事です。

そんな状況下の5月19日、中島校長先生、原田副幹事長、宗像東筑会の高嶋会長(57期)、当番期88期の皆様方御臨席のもと、今年度の「ひのくに東筑会」が開催されました。甲子園効果もあってか設立総会以来の多数の参加者でした。議案審議もそこそこに、ミニ講演、上天草総合病院の姫野先生(65期)の「この年になっても...やっぱり女性の神秘」比較動物学から観たおもしろ産婦人科学と題して予定時刻を大幅に過ぎる熱弁に会場は大いに沸きました。写真撮影のあとは懇親会、甲子園など話題も豊富、在校時応援団長だったという殿川さん(89期)の音頭で校歌斉唱、名残り惜しみ

ながら二次会へ。いつもの事ながら時間の経過が早く感じられる一夜だった。

私事で恐縮ですが、5月5日の休日、私の孫が発熱、かかりつけ医が休みなので、新聞で見た当番医に連れていった娘が言うには、その先生の病院内に「東筑高校卒業」と書いてあったとの事、早速病院名宛に「ひのくに東筑会」へのお誘いの手紙を出した所、翌日夕方に電話があり、出席しますとの事。88期の李さんでした。

「ひのくに東筑会」発足の準備の段階から偶然に恵まれて来た過去がありますが、ここでまた偶然的恩恵にあずかったという気がします。未永く、楽しく交流が出来ればうれしい限りです。

東筑という絆のロープの長さ、太さを今更ながら感じているところです。

宮川薫臣(57期) 記

北海道東筑会

北海道東筑会は、2012年に発足した今年で7年目の会です。毎回の出席者は、10名程度です。

この地元福岡から一番遠い、北海道東筑会の総会・懇親会に、今年は東筑会会長の高山和幸氏をお迎えすることができました。会員皆、ご来道をお知らせしていただけたので、大変な驚きと嬉しさで、会長の気さくなお人柄もあり、大いに盛り上がりました。

当番期副会長の東久美子氏も、前日の東筑会ゴルフ大会の取材後に北海道入り。帰りの懇親会会場から千歳空港へ直行するという忙しさ。しかしながら、お疲れも見せず、和やかな笑顔で華を添えてくださいました。又、今回は、北大の現役の学生さんが懇親会数日前のフェイスブック「いいねー」からの初参加。大歓迎されました。今までも、旅行中の同窓生、お子さんの嫁ぎ先に来られていた大先輩など、素敵な飛び入り参加がありました。これらは、サプライ

ズ大歓迎の柔軟な運営をしてくださっている事務局のお陰です。

懇親会には、全員が近況報告するのが恒例です。皆で聞き、自由に言葉を挟み、脱線により話がどんどん広がることもしばしば(笑)。軌道修正されながらも和気あいあいと話が弾む、楽しいひとときです。今回の出席者は54期から106期に渡り、話題も卒業後の進路から、リタイア後の暮らしぶり、果てはお墓や相続の問題まで、様々に展開しました。こんな楽しい東筑会が、故郷から遠く離れた北海道にあることに、感謝の思いです。

今回、発足以来ずっと会長を務めてくださった54期の沖津行廣氏が、傘寿を機にご勇退され、64期の岡田豊昭氏が新会長に就任されました。総会の頃の北海道は桜のシーズンです。全国の同窓の方々、是非ご参加ください。

山崎邦子(旧姓 前平) (74期) 記



現役の北大生を迎えての春の総会・懇親会

各 期 だ よ り

39期だより

東筑百二十年の歴史を寿ぐ

昭和10年4月、桜花爛漫の中、玄関正面の石段を登りし、250名の希望溢れる入学生、15年3月、第5学年卒業せし者、228名(陸士、陸幼、海兵、旧制高校、大学予科等へ4年修了後、合格転出、病欠)平成30年現存、数名となり皆、病複数をかろいつつの生きざまの、ありさま、95才、96才、でも心は元氣、東筑健児に傲を飛ばす。2022年から新高校指導要領が出るという。生徒の探究心を育てる授業にと、暗記中心主義を改め、生徒自ら、課題を見つけて主体的に学ぶ授業転換を進めねばならないという。討論や発表をとり入れ、「アクティブ・ラーニング」を全教科に導入するのが柱であるという。

そのための新科目に「古典探究」「日本史探究」「理科探究」、必修として「歴史総合」、18才選挙につながる「公共」の科目、政治参加、安全保障の実社会に即したテーマ「地理総合」個々の細かい単知識の記憶指導のみでは役立たない。

小・中・高を通じて「アクティブ・ラーニング」を声高く叫んでいるが、生徒個々人が、広く、深く、理系、文系、天文、地質その他、マンガでも、万般の本を多読して基礎知識を広く深く持つていなければ、空疎な討論で時間浪費に終わり本来の意味が失われることになりすね。

生徒本人が討論する議題に対して、広く、深く、正確な基礎的な知識が必ず必要ですね。社会の仕組は複雑であって、生涯かけて、人間とは何

か。社会とは何かと。

先人の血の滲むような研究の足あとを尋ねることが必修であろうと思います。

本人が人間としての基礎的思考の基本を養うのには、次の7冊をしつかり読破することをおすすめします。

- 一、イタリアのマキャヴェッリの「君主論」
- 二、イギリスのホッブズの「リヴァイアサン」
- 三、フランスのモンテスキューの「法の精神」
- 四、フランスのルソーの「社会契約論」
- 五、イギリスのアダム・スミスの「国富論」
- 六、イギリスのマルサスの「人口論」
- 七、ドイツのマルサスの「資本論」です。

旧制高校出身の若き学徒は大東亜戦争の戦場にこの1・2冊は持って行きました。戦場には、沖縄特攻に散った39期の学友も、とにかく本を多読、深読、新聞の活用。左翼新聞と右翼新聞の見分けと解釈をしてものごとを判断することが大事ですね。

しっかりした、アクティブ・ラーニングで頭と心を鍛え、英語をマスターして、世界の政治、経済、文化、学問のリーダーとして活躍する東筑健児の輩出を心から待ち望む、39期95才の心の青年から。

最後に東筑120年を記念して次の文を贈る。

『嗚呼!! 沖縄特別攻撃隊』

39期、旗生良景海軍大尉と本庄繁海軍大尉の霊にささげる

(歌) 貴様と俺とは同期の桜、同じ東筑の庭に咲く、咲いた花なら散るのは覚悟、みごと散りましょ国のため

(詩吟) 紅唇固く結んで殉国を誓い、布には母の名前を書いて、わが腹にまく

(和歌) 日の本の乙女の肌を知らざりき、われは愛機と共に散り行く

(詩吟) 轟音ひたすらに翔ける沖縄の空 銷魂消ゆる処、残月あり

(歌) 貴様と俺とは同期の桜、同じ東筑の庭に咲く、あれほど誓った、その日も待たず、何故に死んだか散ったのか。日本国民と民族を守るために、学業を大

42期だより

学途中でなげうち海軍パイロットとして、花の22才で沖縄の空に特攻で散華した、旗生、本庄の同期、そしてハワイ真珠湾特攻の35期古野繁實海軍少佐、39期、沖縄戦、米軍の艦砲で散った冷牟田善秀陸軍大尉、全卒業生4万3千人の中で今次大戦で壮烈な戦死、戦病死をなされた、先輩、同輩、後輩の方々の英霊に心から厚く深く御冥福をお祈り申し上げます。合掌

(刀根博愛 記)

我々42期生は、昭和13年4月入学、18年3月卒業の学年です。卒業前少し早目に陸海軍に入隊した方々や満蒙開拓青少年義勇



4月12日 今年も42期生集う(黒崎にて)

52期だより

関西52期会

関西に住み着いた我々52期会は八十路を超えた今も活発に同期会を重ねている。当地の在住者もともと多くはないが、それでもお蔭様で元氣者が多く、今年も去る3月29日大阪梅田に集まった。折からの東筑野球部の甲子園出場と時期を同じくして試合当日と重なりはしないかと危惧しながらであった。甲子園には勿論応援に馳せ参じた。夏、春と連続して後輩たちの頑張りのお蔭で声援を送ることができたのも関西ならではの僥倖である。

今や、52期会は本部総会をはじめ各地で開催されていた同期会が次々と消えて行き、唯一関西だけが残っている。それだけに火を消したくないという想いもあって、他地区の有志にも声をかけをして遠路駆けつけて

団に入団された級友もありましたが、前者の方々も元氣で帰学されて、同窓会に出席されています。毎年4月12日を同窓会の日と定めて、何かと便利な黒崎に集っています。殆どの人が90才を過ぎていますが、出席された方々は元氣で東筑時代の思い出を話題に楽しい一刻を過ごしております。同窓会を世話して下さる幹事のご苦勞に少しでも感謝する意味で、此の原稿を引き受けました。ニューストピックスは特別に無いのですが、42期生は幹事のご苦勞で毎年4月12日に同窓会を開いて、楽しい一刻を過ごしていると云う事ができると思います。ちなみに年表を見ますと、昭和18年2月「ガダルカナル島撤退開始、4月山本大將戦死、5月アッツ島日本軍守備隊全滅」と書いてあります。

(上野裕己 記)

もったりしている。
かつては数年に一度単位であったものが、今では早いうちに次をやらうと頻繁に開催することになって、次回は秋10月4日に京都で集まることにした。大阪京都の他、神戸・宝塚や淡路島などと場所をあちこちと変えて来たが、さすがに今は便利で迷うことのない判り易い場所を選ぶことにしている。

(本田隆三 記)



京都平安ホテルにて(平成29年5月)

57期だより

大盛会だった大還暦の東筑会総会、懇親会に同期二十数名と参加。先輩方や後輩の活躍の報告を聞かせていた



57期喜寿の文化祭風景

き、誇らしい気持ちで校歌を唄ったあと黒崎へ直行。今年2回目の同期会に参加するために居酒屋へ。総会後のこの会は恒例。1回目の同期会は1月の新年会。秋には物故者の法要を穴生の同期・柴田鳳現君の弘善寺で。いずれも四十数名前後が出席。このほか1年8組、2年3組の会などのクラス別の会も、関東や関西などから同僚が帰ってくると仲好しが集合。ゴルフ会は年に4回20名前後が参加、もう70回を超えますが表彰式を兼ねた夜の宴会をやるときはゴルフ参加以外の有志も合流し盛り上がるようです。

昨年秋には節目だからと黒崎コムシティで「喜寿の文化祭」を開催。詩、俳句、短歌、川柳、絵画、絵手紙、書道、写真、人形、刺繍、造花、陶器、生花などのほか出

出版物や手づくりのパターまで。四十数人の同期生が300点以上の自信作を出品。「あの人がこんなことをー」仲間の多彩な活躍にびっくります。
どの会も幹事は同じ人ではありません。もちろん重なる人もたくさんいます。が、幹事は大変ですがそれぞれが意気に感じて運営してくれているから同期の仲間の輪が広がっているのでしょう。幹事に感謝です。

(原田誠一 記)

58期だより

九州北部豪雨復興支援・
筑後川温泉の旅

58期生の20名が折尾駅西口に集まりバスに乗り込みます。バスはしばらく遠賀川沿いを走り、飯塚、小石原を経由して7月の北部豪雨で被害の大きかった山間の町をひた走ります。

バスの窓外に広がる光景は惨憺たるありさまで家を流された更地、半壊となつて人が住めない家等、復興がほとんど進んでいないと思われまふ。又、川の土手は大きく決られ、砂泥の堆積が著しい荒地が目の前に広がっています。

山間部を通り抜け、最初の観光は吉井町の白壁通りの散策です。この通りは久留米と日田を結ぶ街道で現在は『伝統的建造物群保存地区』に認定されて電線は地中に埋められ、土蔵の建物と白壁が古い日本の佇まいとして残されています。この地区は蠟燭の商いで財を成した屋敷があり、バスは紅葉した櫨の並木道を次の観光地『調音の滝』へと走ります。滝、あとの『つづら棚田』もシーズンオフで見学者もなく静かです。棚田を観た後、



筑後川温泉「清乃屋」にて

今夜の宿である「清乃屋」に到着しました。温泉は単純温泉で肌がすべすべとなり入浴された女性には満足され、気持ち良かったと思います。食事、宴会は大広間で始まり、次々とわが歌手が自慢の喉を披露して大いに賑わいました。宴もやがて終了し、再び風呂に入ったり、部屋で歓談したりと夫々楽しんだようです。

次の日は朝からあいにくの雨で宿を出発して最初に焼酎をつくっている所、次に巨峰ワイナリーに行き地下工場で案内の説明を聞きました。相変わらず雨は降り続き止みそうになく、昼食後は計画を変更して秋月にまわり、道の駅『うきは』を経て甘木インターより高速道で帰途につきました。後期高齢者となった私達も誰々が亡くなったと聞くたびに寂しい思いがしますが、昔に立ち返って旧友と語りあうことは楽しいひと時でした。

(大久保勝征 記)

60期だより

我が60期が東筑生になって60年

母校の創立120周年が奇しくも我が60期生が入学して今年でちょうど60年の還暦の年になります。最近折尾駅周辺の再開発によって風景が大きく変わりました。折尾駅は交通機関の要の地で、国鉄、西鉄電車、市営バスなどの乗り物に、いろいろな学校の学生が集まり通学時には足の置き場もない程の群衆となっていました。登校時の人混みの中に4本の白線が入った帽子がひととき目立ち、

当時、折尾駅は交通機関の要の地で、国鉄、西鉄電車、市営バスなどの乗り物に、いろいろな学校の学生が集まり通学時には足の置き場もない程の群衆となっていました。登校時の人混みの中に4本の白線が入った帽子がひととき目立ち、



秋のバスツアー「平戸の旅」

あちらこちらに帽子の溜まりができていました。そんな制帽を深々とかぶり校門の石段を桜吹雪の中登った記憶、階段を登りつめれば白い鉄筋コンクリート3階建の本館の中に職員室と3年生の教室、右別館に図書館、左には木造2階の1・2年生の教室があり武道館、体育館その右下に相撲場がありました。

在校時には体育系が隆盛を極め、甲子園を目指し決勝で敗れた野球部、玉龍旗の剣道部、全国大会で活躍した体操部や相撲部など朝礼のたびこれらの報告に歓喜した事を感じて終え、やっと同窓の仲間入りをしたのが昨日のようで、月日の早さを痛感しております。

60期の最近の活動として毎年の同窓会に参加し、同日場所を変えて同期会を開催しています。また年末の忘年会、そして2年に1度の1泊2日のバス旅行で友情を深め元気を貰っています。一方では有志のゴルフ大会、また友の畑では日にちを決めて家庭菜園を楽しんだりしています。

古希は早くも過ぎ去り、後期高齢者の仲間入りをし人生の秋を迎えています。今年も思いがけなく何人かの良き友に先立たれ皆淋しい思いがありますが、残された者として日々運動を心がけ心身共に健康で、くよくよせず楽しく過ごし、何ごとも「塞翁が馬」の心で臨み、少しでも寿命を延ばすよう皆励むつもりです。これからも同期生の活動に一人でも多くの友の参加を待っています。

(大八木秀良 記)

61期だより

まもなく猛暑の中、甲子園での夏の戦いが始まります。昨年の夏は母校東筑の23年

振りの出場、そして春の選抜と、春夏連続の甲子園へ、創立120年の伝統に花を咲かせました。今年の夏も大いに期待しましたが残念ながら一回戦敗北、又の出場を待ち焦がれるものです。

さて春の甲子園には同期生40名がスタンドにて声援致しました。試合終了後各地より駆けつけた同期生が記念会を現地にて開催致しました。次回には又ここで杯を重ねようと言ったものです。

61期会は様々なグループで懇親を深め合っています。本校同窓会の参加、東京地区、関西地区、福岡地区、そして地元九州地区で年1度の同期会の開催、旅好きの皆が集まり、2泊3日の温泉旅行、恩師を囲んでの旧クラス会、ゴルフ同好会、等々が開催されています。又後期高齢者の75才の仲間入り。77才の喜寿等々の節目に一同再集合しようと計画を練っているところで、年齢を考えればあと10年、健康で、元気で、楽しく、そして青春時代の思い出を語り合う同期会であればと願って61期のたよりと致します。

(三原征彦 記)

我々61期関東地区ではこれまで年2回程度の集いを実施してきましたが、70歳を過ぎて体調に不安を抱える人も増えたことから集いは11年半に1回とし、今年は4月に熱海温泉旅行を実施しました。従来は2人前後参加していましたが今回は9人のこじんまりしたものとなりました。

朝9時に池袋駅に集合し、ホテルの送迎バスで熱海に向かいました。昼頃ホテルに到着し、夕食までの時間をどのように過ごすか相談した結果、初島に行こうということになり、フェリーで25分の島に渡りました。小高いところにある亜熱帯植物園や島内を散策した後、全員お腹が空いていましたので、美味しい魚を食べようということになり、港の食堂街に下りて行きました。天然の魚礁と言われる初島の漁師が営む

新鮮な魚自慢のお店が十数軒並んでいて迷いましたが「朝獲れの魚ですよー」の殺し文句が聞こえ、一行は一軒のお店にだれ込みました。朝獲れの言葉通り出された海鮮丼は新鮮美味で一同堪能致しました。

ホテルに戻って入浴、夕食後は何時もの通り高校時代にタイムスリップし、楽しい歓談の時間を過ごしました。翌日はMOA美術館を見学しました。長いエスカレーターを乗り継いで上がったきた美術館の正面玄関前のムアスクエアは、眼下に相模湾が広がり、昨日行った初島が真正面に見える絶景スポットでした。

初島に渡ったり、高尚な美術、芸術を鑑賞したりと行き当たりばつたりの気ままな旅でしたが十分満足の1泊旅行でした。帰りの車中はお疲れモードで全員爆睡となつたことは言うまでもありません。来年も再来年も元気でいることを願い、次回はより多くの同期生との再会を楽しみに解散しました。

(福田貞夫 記)



MOA美術館 ムアスクエアにて

66期だより

落語会と人吉温泉旅行

66期生もリタイアを機に趣味に磨きをかける人が増え、セミプロ級の腕を持つて芸名で活躍している人も居るようです。そこで、66期のメンバーで演芸会を開催してみようかという話を持ち上がり、昨年8月4日に折尾の居酒屋「つくし亭」の2階を借りて66期落語会を開催する運びとなりました。落語を練習している同期生の都合が付かなくなり、落語家については、同期生の伝手でアマチュアの人材を探して貰いました。出陣子についてはセミプロ級の腕を持つ高崎公夫君が担当し、前座は、いろいろな所でサックス演奏の腕前を披露している久保田進君が務めました。8月の初めの暑い時期で、観客が12名と少なかったのが残念でしたが、落語会を楽しむことができました。特技を持っている同期生がまだまだ他にも居るようなので、次回は、落語以外の演目も含む66期演芸会を開催できるのでないかと思っています。

また、66期温泉同好会は、昨年10月17日から1泊2日の日程で、JR九州を利用して人吉温泉に行ってきました。熊本と人吉間は、昨年春から運行を始めた特急やませみかわせみ号を利用し、球磨川沿いをゆっくり移動しながら車窓からの景色と飲食を楽しみました。人吉の宿舎での食事もし分なく、今年はカラオケも忘れずに準備していたため、宴会も盛り上がりしました。

次の日は、球磨川下りを楽しみました。雨が降った後なので水量が多く、急流部分ではスリルも味わえました。人吉は鰻が名物とのことで、昼食には鰻の名店に並んで鰻重を堪能しました。温泉同好会も九州北部と山口県を制覇しましたので、

次回は九州南部の温泉へ旅行する計画を立てています。

(加未久幸 記)



宿に着いて乾杯！

70期だより

甲子園でも盛り上がった70期

昨夏は、「21年ぶりの夏の甲子園野球大会出場」。今春は、「20年ぶりの春の選抜甲子園野球大会出場」でした。何と、2大会連続の甲子園大会出場である。70期にとっても、この上ない嬉しい一年でした。

春の甲子園では開会式直後の試合でしたが、1塁側アルプススタンドは東筑関係者が、超満員。みんな、声を枯らしての大声援。

毎年定例の総会後の同期懇親会



甲子園大会後の大阪での同期懇親会

残念ながら試合終了後の校歌を聞くことはできませんでしたが、その正々堂々たる戦いぶりは、「本気の東筑魂」を十分感じさせるものでした。

試合後は、新大阪駅付近に場所を移しての懇親会。関西東筑会70期小川君のお世話で、関東から九州までの70期20名以上が集まってくれました。実に楽しい会となりました。その場で、東京東筑会70期のお世話で、結城君から「古希準備旅行」が具体的に提案されました。日光・中禅寺湖を巡る2泊3日の旅です。みんな大賛成で、一人でも多く同期の参加を募っていこうということを確認しました。このようなきっかけを作ってくれたのは、東筑の甲子園出場です。これからも、母校に対する感謝の気持ちや70期の絆を更に深めていきたいものです。

さて、話は変わりますが、70期では、新年会（1月の第1土曜日夜方）、東筑会総会後の二次会を毎年開催しています。会場は毎年、黒崎のイタリアンレストラン「香

味屋」です。70期で大いに飲み、盛り上げましょう。

(青野元昭 記)

71期だより

殖生先生11回目は源氏物語「夕顔」
古典の授業、71期会と甲子園

恒例となった殖生先生の古典の授業、今年は源氏物語「夕顔」を選ばれました。

市民講座の講師もされている先生の大好きな源氏物語とお聞きしていました。学生時代には決してしなかった予習を今回もして、私は当日に臨みました。が、東筑会の役員会・総会と重なって、残念ながらほとんど拝聴できず残念でした。例によってA4用紙2枚にびっしりと書かれた資料を拝見して、さぞかし楽しかっただろうなと想像しました。

その後東筑会懇親会と黒崎に場所を移し



殖生先生(中央)を囲んで

ての71期会総会が盛り上がったのは論を待ちません。

いつも講義を快諾して頂ける殖生先生、林事務局長、パンフレット作成の三橋さん、その他71期役員の方々いつもありがとうございます。お礼を申し上げます。

話は変わりますが、3月23日は朝4時30分起床、6時に小倉駅に集合して甲子園に向かいました。「去年の夏に続いて、春も甲子園に連れて行ってくれる」と喜んで出発しました。

試合が始まり、途中までは行けるかと思いましたが、結果はご承知の通り。71期は勝つても負けても「祝勝会」ということで、関西在住の林さんの尽力で、球場近くのお店に集合。途中参加組も含めて20名近くの方が試合の余韻に浸っていました。

再会を期して三々五々家路につきました。ちなみに私は、旧3年4組のちよい悪同級生たちが、地元三ヶ森で残念会を企画してくれて、それにも参加。長い、長い、でも充実した一日でした。

応援列車のチケットのお世話をいただいた岡さん、どうもありがとうございました。

(三宅正輝 記)

74期だより

みんな元気で！

～還暦旅行

伊勢神宮をたずねて～

私たち74期は、去る5月12日～14日にかけて念願の還暦旅行を行いました。そもそも還暦旅行は当番期終了時より、予定はしていたのですが、「60歳まで待てない」という同期生の声を受け、5年

前に「55歳の修学旅行」と銘打って2泊3日の京都旅行を敢行いたしました。その節に大変盛り上がり、ついつい調子に乗って「還暦の時に集まろう」という事になって、この還暦旅行に至りました。今回は2泊3日で伊勢路を旅しました。

12日当日、全国（？）各地より総勢30名が新大阪駅に集合し、貸切りバスに乗り込み、一路伊勢へと向かいました。途中、昼食で松阪牛の焼肉を堪能し、その後、二見ヶ浦へ向かい、夫婦岩を訪れて夫婦円満を祈願いたしました。夜は伊勢市内のホテルにチェックインした後、市内の居酒屋を貸切り、マグロ料理で大いに賑わいました。

翌日はいいよ、お伊勢参りです。あいにくの雨模様となりましたが、前日購入した御朱印帳を握りしめ、まずは道案内の神様、猿田彦神社を詣で、続けて倭姫宮、外宮の豊受大神宮を参拝いたしました。（御朱印は全てバスガイドさんが並んで押してくれました。）おかげ横丁で郷土料理「てこね寿司」の昼食をはさみ、今回のメインイベント、伊勢神宮内宮（皇大神宮）の参拝です。正装に身を包み、正式参拝（御垣内参拝）を行いました。雨のせいか、より幻想的で厳かな雰囲気です。参拝することが出来ました。参加者全員が身も心も浄化され、清々しい気持ちになれたと思います。その清らかさと感謝の気持ちを胸に、夜の伊勢市内に繰り出し、伊勢エビ料理に舌鼓を打ちました。参拝のお陰で、就寝後は、全員が良い夢を見たことでしょう。

翌、最終日はミキモト真珠島を見学し、はちまなかまど海女小屋体験で海の幸のBQを味わった後、伊勢での思い出を胸に帰路へと着きました。途中、近鉄・鳥羽駅に寄り、ここで関西・関東方面の同期生と別れ、九州組は新大阪駅へと向かい自宅へと戻って行きました。

今回の旅行では、卒業以来、初めて再会した人や、在学中は全く接点がなく、お互いに存在を知らなかった人と確認し合えた

りと大変有意義な旅行であったと思います。今後は、「5年毎に旅行をしよう」とか「次は温泉がいいね」とかの声が上がっています。その意向を受け、5年後にも何かしらのイベントを計画したいと思っています。今回参加出来なかった同期生の方々も次回は是非、ご参加ください。

次回再会するその時まで、「みんな元気で！」

(佐竹真人 記)



正装に身を包み

82期だより

夏春応援青春18きつぷの旅

心弾む応援準備は「青春18きつぷ」購入から始まりました。JRを8回乗り継ぎ、宿に前乗り。旧友と合流して、近くのお好



「青春18きつぷ」で応援に向かった甲子園

み焼き屋さんで乾杯。教室で昨日も過ごしたかのように、話は尽きません。

それでも、当日は早起きして、東京東筑会さんからキャップを受け取り、同期へ配布。体育祭の時のように高揚する心。周りの先輩方とも声を出し合い肩を組んで気持ちひとつに。多感だった自分や我が子が、現役生たちの背中に重ね、青い甲子園のおかげか、「いろいろ有ったけれど、良い時間を送らせてもらえたな」としみじみ。夏春どちらもテレビ観戦していた同僚から、「東筑の応援、怖いくらいに相手を圧倒したとうね」とメールが届き、にんまりしました。試合終了後も、新幹線駅近くで大勢の同期と乾杯、歓談。仕事も生活もそれぞれ違う道、ややもすると自分のことを後回しにする年齢です。それでも、えんじ色を身に付けて応援する時、今の《わたし》と東筑生だった頃の《わたし》を行ったり来たりする気がしました。

第100回全国高等学校野球選手権記念北福岡大会、東筑は研究されたのでしよう、北九州高校に敗退。悔しくて切ない思いでいっぱいでしょう。

しかし、選手たちは冷静に自分たちと試合の内容を振り返っていましたね。この経験から学べることは豊かで、これから先に

見える景色は確実に違うものになるでしょう。

甲子園球場での勝利の東筑校歌斉唱は、次の楽しみに。夏春続けて、甲子園で応援できたことは有り難く、心から感謝しています。野球部部長山本哲也くんは82期の誇りです！野球部の活躍を少しナナメにみていた女子高生の私でしたが、今は先輩さんたちの活躍を真っ直ぐ応援しています。次回も18きっぷで往復できるよう、体調を整えていきます。

羽生恵美子(旧姓 桑原) 記

85期だより

関西当番期と50歳の京都修学旅行

北九州、東京の当番期から早3年。関西東筑会総会・懇親会の当番期が我々85期に回ってきました。84期の先輩から北九州で襷を引き継いで以来、長く続いた当番期活動もこれで終了です。

当番期だったの希望により今年は京都(からすま京都ホテル、5月26日)で開催させていただきましたが、甲子園出場効果もあつてか216名と過去最多規模の出席者を得て盛会のうちに終了することが出来ました。我々当番期も、全国各地からの応援に駆けつけた同期を含め、総勢59名が京都に集結しました。

懇親会終了後は、西本願寺近くの旅館「緑風荘」へと移動し、長かった当番期の打ち上げと「50歳の修学旅行」を行いました。夜は旅館での大宴会。心地よい達成感と安堵感に包まれ、大いに盛り上がりました。

翌日の京都観光は、西本願寺晨朝からスタートしました。前夜の飲み過ぎが心配されましたが、早朝5時にも関わらず

約20名が集合し勤行に参加しました。その後、旅館に戻り、貸切バスで伏見方面へ観光に向かいました。伏見稲荷、伏見城外堀を十石舟での遊覧、酒蔵、月桂冠大倉記念館、寺田屋旅館等、久しぶりに会った面々と非常に楽しい時間を過ごすことが出来ました。

関西当番期が北九州と東京の当番期から3年遅れているおかげで、実質4年間の当番期活動を経験しました。この当番期活動を通して、高校時代は一言も話したことのない人達、当初は卒業アルバムの写真



関西東筑会当番期での85期集合写真

と見比べて同期であることを確認しあった人達とも、新しい繋がりを築くことが出来ました。50歳になって「高校時代の友人」がこんなに増えるとは、思いもよりませんでした。

今回の「50歳の修学旅行」を締めくくりとして当番期活動は終了ですが、この4年間で築くことが出来た東筑同窓生としての繋がりが、今後も更に深まっていくことを強く願っています。

(竹下宏樹 記)

87期だより

昨年度当番期を務めました、87期です。北は北海道から南はひのくにまで、全ての地域東筑会に参加させていただき、たくさん温かい激励のお言葉をかけていただきました。至らない点も多かったと思いますが、なんとか無事に当番期の大役を果たすことができたのも、同窓の皆さまにご協力をいただいたからこそであり、この場をお借りして心から御礼申し上げます。

さて、昨年は6月10日の東筑会総会・懇親会が終わり、肩の荷が少し降りたところで野球部が21年ぶりの夏の甲子園に出場してくれて、87期一同で甲子園に観戦に行きました。

10月29日の東京東筑会懇親会も当番期として、関東在住者を中心にお世話をさせていただきました。本校のご協力により、野球部青野監督、選手のインタビューを放映し、大変喜んでいただきました。さらに、懇親会が開催される直前の秋の九州大会で野球部はベスト4に進出し、20年ぶりの春の選抜出場もほぼ決めてくれていましたので、祝賀ムードに包まれた和やかな懇親会となりました。

春の甲子園にも87期一同で応援に行き、



87期 甲子園に集合 えんじ色の帽子とタオルで応援

勝利の校歌をアルプススタンドで歌ったのですが、2季連続で聖地のアルプススタンドで応援させてもらえるなんて、地元と東京の当番期、よく頑張ったねと神様からご褒美をいただいたと勝手に解釈しております。

最後に、昨年の当番期をきっかけに、高校生当時は会話をしたことがなかった同級生とも新しい絆ができました。昨年の懇親会のスローガン、「伝統の継承」此処に確かめん東筑(こゝろ)の絆」とおり、しっかりと同期の絆が深まりましたので、2年後の関西東筑会の当番期まで、固い団結力を維持し、皆さまに喜んでいただけるような懇親会が開催できるように頑張りますので、変わらぬご指導ご鞭撻を賜りますよう、よろしくお願ひ申し上げます。

(船元幸徳 記)

113期だより

2015年卒業の113期です。卒業から3年半が経ち、中には来春、社会人としての生活を歩み始める者もおります。若輩者ですが、可愛がって頂けると幸いです。

113期の活動としましては、同窓会を20歳・22歳の時に行う計画で、現在は後者に向けて鋭意準備中です。以下、2017年に行った同窓会の開催報告をさせていただきます。

113期同窓会は、2017年1月7日に八幡ロイヤルホテルにて開催しました。

今回はSNSを駆使し、各クラスのLINEグループや、同窓会公式Twitterといった、慣れ親しんだツールで、イベントや諸連絡の周知を行っています。

本会のコンセプトは、「やれることは、やってみよう！」おそらく、この20歳の同窓会が最も出席者が多い会になります。せっかく来てくれるのだから、楽しんで帰ってもらおうという想いで準備を進めました。

様々なコンテンツがありますが、最も重視したのはご招待した先生の幅の広さ。学年主任の板木先生・小森先生は勿論のこと、担任・副担任問わず、113期にご縁が深かった先生に幅広くお声がけしました。結果として、ご出席頂いた先生が12名、ビデオレターでご出演頂いた先生が11名と、大変豪華な顔ぶれとなりました。紙面をお借りして、先生方に感謝の意を表させていただきます。

先生方にも入っていただき、クラス写真や部活動写真など、集合写真撮影を多く行いました。数十年前、我々はどんな思いで見返すのでしょうか。

2時間半という短い時間を楽しんだ出席者は、113期生312名!!出席率

80%という高い値を残す事ができました。幹部を一部リニューアルして行う、第2回目の113期同窓会は、2018年12月の開催予定です。詳細は、各SNSにて案内があると思いますので、ご期待ください！
(小林彩人 記)



成人を迎えて なんと出席率80% (平成29年1月7日 北九州八幡ロイヤルホテル)

114期だより

卒業3年生

114期は、去る平成28年度に東筑高校を卒業しました。その2年後、成人を迎える年に同窓会で再び顔をそろえました。会の発起人を務めました。参加者名簿を手に、先生方や級友に会えることを思い、当日を迎えました。最寄駅から移動し、開会前から談笑で盛り上がる皆の姿を見て高揚しました。乾杯の音頭を取る頃、彼らは駆けつけてくださった先生方の周囲はもちろん、各所で輪になって、各々が高校生の時分に戻ったかのように過ごしているようでした。その明るさは今でも脳裏に焼きついてます。会場には、10名の先生方に加えて、329名もの同期生が参加しました。これほどまでに多く集まることができたのは、深く濃密な、あの3年間の賜物だとありがたく思います。盛況のまま幕を下ろした会に、友の協力は不可欠でした。そんな彼らからの労いや、先生方からのお褒めの言葉は筆舌に尽くしがたいほどうれしく、114期の一員であることが誇らしく思えました。

大学へ進むと勉強内容はより専門化し、部活動などにより専念している者もいます。その多くは、大学生としての時間を残り僅かとしています。周囲から「インターン」や「実習」など、高校では馴染みのなかった単語が飛び交う度に働く大人へと近づいている実感が湧きます。それと同時に、3年前までは同じ学び舎で同じ黒板を見ていた者が、すでに多方向へと向かっていく最中であることを思うと、次回の同窓会まで私は我慢することができののか一層不安で仕方ありません。

次回は、いつにしましょうか。

(島津和仁 記)

福岡県立東筑高等学校 114期生同窓会
平成30年1月6日 北九州八幡ロイヤルホテル



成人を迎えて (平成30年1月6日 北九州八幡ロイヤルホテル)

116期だより

東筑会会員の皆様におかれましては、益々ご健勝のこととお慶び申し上げます。早速ですが、私たち116期生の近況をご報告致します。私たち116期生は2018年3月1日に東筑高校を卒業し、早いもので、すでに半年もの月日が経ちました。

大学生活を謳歌する者、大学進学に向け勉学に励む者、全国各地で活発的に活動しています。それぞれ別々の道へと一歩を踏み出したばかりですが皆が口を揃えて言うことは「高校生活が楽しかった」「高校生に戻れるならば戻りたい」ということです。

この様に思えるということは、東筑高校での生活がどれほど充実しており、意義のあるものであったかは言うまでもありません。確かに時には不安や苦悩を感じることがありましたが、今となっては素晴らしい思い出へと変わりました。昨年には甲子園という貴重な体験をさせていただきました。一生忘れることのない思い出を残してくれた友人、また学校生活を支えていただきました先生方、諸先輩方にこの場で大変感謝ではあります。御礼申し上げます。ありがとうございます。

話は変わりますが、今年は東筑高校120周年という節目の年になります。120年という歴史ある伝統に携わっていることをうれしく思います。我々116期生はこれから成人を迎え、そして大人の階段を徐々に上るにつれて当番期を迎えることとなります。まだまだ未熟な私たちは右も左も分からぬまま社会へと出て、社会の荒波にもまれ挫折することも多々あるかと思いますが、その際には諸先輩方に御手を差し延べていただければ幸いです。そしていつの日か、私たちも同様のことを後輩にもできれば

と考えています。最後になりましたが、116期の皆さん、まずは成人式でお会いしましょう！

(田浦嘉隆 記)



九州大学 伊都キャンパスにて

編集後記

おかげをもちまして、会報39号が発刊の運びとなりました。執筆や投稿にご協力いただきました関係者の皆様方には、心から感謝申し上げます。

「各地区東筑会だより」への投稿も、ここ数年は全16地区すべてからいただいております。大変心強く思っています。それぞれの地区の活発な東筑会活動の様子がよくわかりました。「各期だより」では、39期の先輩から今年東筑を卒業したばかりの若い世代の投稿まで、東筑のよき伝統を感じるものばかりでした。投稿、ありがとうございます。さて今年、野球部が第90回選抜高校野球大会に20年ぶりに出場するという快挙。

また、夏と春の2大会連続出場は、開校以来初の出来事であり、学校も同窓会も大いに熱くなりました。一度も甲子園球場に行かなかったがなかった私ですが、昨夏と今春と二度にわたり、母校の入場行進と開会式試合を観戦することができました。母校がそのきっかけを作ってくれたという感謝の気持ちでいっぱいです。

特に春の大会では、開会式直後の第一試合ということもあり、一塁側のアルプススタンドをあらかじめ陣取った東筑大応援団の目の前を、堂々と入場行進する東筑選手団と大歓声。快晴の青空に映える感動的な光景でした。東筑の「T」の人文の美しさ。また、応援席は世代を越えた東筑同窓会の会場ともなっていました。そこにいると、いつの間にか高校生時代の気持ちに戻っている自分がいて、大変不思議でした。惜しくも、試合終了後の校歌は聞くことはできませんでしたが、野球部の甲子園出場が同窓の絆をより強いものにしてくれました。

ちなみに、昨夏と今春の2大会出場の公立高校は全国でわずか2校。やはりこれはすごいことです。しかも、今年は東筑創立120周年の年です。東筑同窓への大きなプレゼント

トとなりました。校長先生から、「野球部の活躍は、他の部活動の活性化や東筑生としての意識の高場につながっています。」とお聞きし、大変嬉しく思いました。東筑高校を様々な形で応援していきたいものです。

ところで、人間の60歳が「還暦」、120歳が「大還暦」（知りませんでした）。この節目の年に、「東筑大還暦」にちなんだ様々な行事が企画・運営されました。6月16日には記念式典が東筑高校で盛大に開催されました。記念式典後には、ユニークな生徒発表「生徒会コンセプト発表」「生物部の研究の歴史とこれから」「E.S.S部発表」「野球部インタビュー」が行われました。元気な生徒たちにより現在の活気ある東筑の姿が次々に発表され、記念式典に花を添えてくれました。「東筑は今も昔も元気だ」と感じた次第です。本会報誌にも、春の選抜甲子園出場や120周年記念事業に関する特集記事を掲載していますので、是非一読ください。最後になりましたが、会員の皆様方の会報作りへの多大なご支援・ご協力、誠にありがとうございます。深く感謝申し上げます。編集後記といたします。

会報委員長 青野元昭(70期)

これからの東筑会の情報はウェブサイトでチェック!!



- ・必要な情報はプリントアウトで即保管。
- ・懐かしい校歌や一本松や正門を掲載。
- ・場所もスグに確認できる、お問合わせアクセス。
- ・同窓会期リンク集を掲載。

www.tochikukai.jp

新住所を事務局へご連絡ください

☆住居表示に変更・改姓・転居された方

※個人情報保護の観点から会員個人情報は適切に管理し、正確性・安全性の確保に努めます。

事務局 Tel 093-603-6815 Fax 093-603-6820
E-mail tochiku_k@ybb.ne.jp (担当 藤澤)